

## 第二部商経学科

### 【教養科目】

#### (教養一般)

人間と文化	182
日本の歴史	182
日本文学	183
こころの科学	183
比較文化	184
アジア文化論	184
日本国憲法	185
数学の世界	185
環境問題	186
かごしまカレッジ教育	186
かごしま教養プログラム	187
かごしまフィールドスクール	187
キャリアデザイン	188

#### (外国語科目)

英語 I (A)	189
英語 I (B)	189
英語 II (A)	190
英語 II (B)	190
異文化コミュニケーション (英語)	191
異文化コミュニケーション (中国語)	191
中国語 I (A)	192
中国語 I (B)	192
中国語 II (A)	193
中国語 II (B)	193

#### (スポーツ・健康科目)

生涯スポーツ実習 I	194
生涯スポーツ実習 II	194

#### (情報科目)

情報リテラシー I	195
情報リテラシー II	195~196

### 【専門科目】

#### (専門基礎科目)

##### 〈基礎理論〉

経済学	197
社会学	197
行政法	198
経済政策	198
社会政策	199
社会思想	199
民法	200
商法	200
産業心理学	201
簿記論 I	201
経営学総論	202

##### 〈情報基礎〉

情報科学概論	202
文書作成実習	203
統計学	203
応用文書処理	204
PCデータ活用	204
PCデータ活用実習	205
PCアプリケーション実習	205~206

#### (専門応用科目)

##### 〈経済理論〉

日本経済論	206
財政学	207
農業経済論	207
金融論	208
経済学史	208
経済学特講	209

##### 〈地域と国際〉

国際経済論	209
国際立地論	210
アジア経済論	210

国際関係論	211
アジア事情	211
ヨーロッパ事情	212
地域経済論	212
地域産業政策	213
地方自治論	213
労働法	214
国際経済特講	214
地域研究特講	215
地方自治法	215

##### 〈経営理論〉

簿記論 II	216
経営管理論	216
経営組織論	217
管理会計論	217
原価計算	218
経営学特講	218

##### 〈情報分析・活用〉

比較経営論	219
企業行動科学	219
経営戦略論	220
企業論	220
経営工学	221
コンピュータ会計	221
応用データ活用	222
プログラミング	222
情報論特講	223
マーケティング論	223

##### 〈演習・実習〉

基礎演習	225
演習 I	225
演習 II	225
卒業研究	225
社会活動	226
企業研修	226

13 第二部商經学科教養科目  
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	木戸 裕子・倉重 賢治・木下 朋美・轟 義昭・穴戸 克実 宗田 健一・斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 (注) 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大の、三つの学科の7人の教員がそれぞれの分野から、世界各国さまざまな時代における「文化」とは何かを考察します。一週間という集中した期間で、さまざまな知見を学ぶことで、受講生にとって、時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。</p> <p>【到達目標】各国、各時代の文化について、多方面から考え、理解する。また、考えたことを自分のことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中、必要に応じて指示します。		
授業スケジュール (22年度の実績)	第1回 文化とは (木戸) 第2回 日本古典文学と文化 (俊寛説話の変遷) (木戸) 第3回 人間の感覚の定量化 (倉重) 第4回 人間の行動のモデル化 (倉重) 第5回 香りを楽しむ文化 (木下) 第6回 世界、日本、そして鹿児島のお茶と文化 (木下) 第7回 黒澤映画『乱』『蜘蛛巣城』と日本の因襲・文化1 (轟) 第8回 黒澤映画『乱』『蜘蛛巣城』と日本の因襲・文化2 (轟) 第9回 住宅の空間文化 (1)日本の間取りと歴史 (穴戸) 第10回 住宅の空間文化 (2)世界の間取りと暮らし (穴戸) 第11回 簿記・会計の歴史と文化1 (宗田) 第12回 簿記・会計の歴史と文化2 (宗田) 第13回 地域の文化資本1 (斉藤) 第14回 地域の文化資本2 (斉藤) 第15回 試験とまとめ		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) と毎回の授業の感想・意見等 (20%) で評価します。		

(注) 前期集中講義期間 (9月20・21日, 26日~30日の7日間)

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州・南島の先史・古代・中世</p> <p>【概要】 日本全体の歴史の流れの中で、南九州から南島に生活した人々の姿を、なるべく最新の情報を使用しながら概観していきたい。</p> <p>【到達目標】 歴史的なものの見方や考え方を理解し、郷土の歴史に関心を持つ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜プリントを用意する。 (2) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一著『鹿児島県の歴史』(山川出版社, 1999年 第5版2007年)		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方・資料と史料 (1) 第2回 資料と史料 (2) 第3回 資料と史料 (3) 第4回 資料と史料 (4) 第5回 考古学から見る南九州 (1) 第6回 考古学から見る南九州 (2) 第7回 神話・伝承の中の南九州 第8回 奈良時代の南九州―「薩摩国正税帳」をよむ (1) 第9回 奈良時代の南九州―「薩摩国正税帳」をよむ (2) 第10回 平安時代の南九州―京田遺跡出土木簡をめぐる 第11回 平安時代の南九州―交通路をめぐる 第12回 平安時代の南九州―墨書土器をめぐる諸問題 第13回 夜光貝と硫黄をめぐる歴史 第14回 キカイガシマをめぐる諸問題 第15回 奄美と琉球		
成績評価の方法	授業ごと的小テスト等 (60%) + レポート (40%)		

授業科目	日本文学	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 旅と文学</p> <p>【概要】 九州新幹線鹿児島ルートと全線開業に伴い、鹿児島と九州各地、本州との行き来がますます盛んになりそうです。新幹線に限らず交通機関の発達した現代においても、人は旅することで様々な発見をします。そういう発見、体験は文学に豊富な題材をもたらしました。交通機関の発達していない古代において人は旅で何を感じ、どんな文学作品を書いてきたのでしょうか。本講義では旅を描いた文学作品に触れ、各時代の人々の考え、文化について学びます。</p> <p>【到達目標】 旅をテーマにした様々な文学作品に触れ文学のおもしろさを知る。自分の考えをことばで表現することができる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし。プリントを用意します。</p> <p>(2) 第1回授業で提示します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 家にはあはれに盛る飯を・・・『万葉集』の旅</p> <p>第3回 はるばるも来ぬものかな・・・『伊勢物語』東下りの旅</p> <p>第4回 男もすなる日記といふものを・・・『土佐日記』の旅</p> <p>第5回 二千里の外、故人の心・・・『源氏物語』の旅1</p> <p>第6回 『源氏物語』の旅2</p> <p>第7回 あづま路の道のはてよりも・・・『更級日記』の旅</p> <p>第8回 都出でてけふ九日になりけり・・・『匡衡集』・『赤染衛門集』1</p> <p>第9回 『匡衡集』・『赤染衛門集』2 平安時代の転勤事情</p> <p>第10回 月日は百代の過客にして・・・『奥の細道』</p> <p>第11回 薩摩の旅・お江戸の旅・・・『垂邑詩集 (すいゆうししゅう)』1</p> <p>第12回 『垂邑詩集』2</p> <p>第13回 江戸の紀行集</p> <p>第14回 鉄道マニアの文豪 内田百閒『阿房列車』</p> <p>第15回 前期定期試験</p>		
成績評価の方法	レポートの提出 (80%) および講義に関する毎回の感想・意見等 (20%) で評価します。		

授業科目	こころの科学	担当者	石川 満佐育
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 「科学としての心理学」について、学生の自己理解、他者理解に役立つような知識、研究例を紹介するとともに、その研究方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 心理学領域のうち、社会心理学、カウンセリング心理学、青年心理学のトピックスを取り上げながら進めていく。また、心理学的研究の理解を深めるために、実際に質問紙調査、実験等を体験してもらい実習も取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①心理学という学問領域の多様性について理解し、心理学的なものの方・考え方を養うことを目標とする。</p> <p>②自己理解・他者理解を深めるための知識を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 毎時プリントによる資料を配布します。</p> <p>(2) 参考文献は講義中に随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：心理学とは？</p> <p>第2回 心理学の基礎知識</p> <p>第3回 心理学の対象と研究方法</p> <p>第4回 社会心理学①：自己開示と自己呈示</p> <p>第5回 社会心理学②：対人認知</p> <p>第6回 社会心理学③：集団の影響</p> <p>第7回 社会心理学④：人とのつき合い方</p> <p>第8回 カウンセリング心理学①：カウンセリングとは？</p> <p>第9回 カウンセリング心理学②：自己理解のためのカウンセリング</p> <p>第10回 カウンセリング心理学③：ストレスへの対処</p> <p>第11回 カウンセリング心理学④：支援が必要な人たち</p> <p>第12回 青年心理学①：青年期の特徴</p> <p>第13回 青年心理学②：青年期の対人関係</p> <p>第14回 青年心理学③：進路選択・現代社会の中での自分</p> <p>第15回 まとめと 試験</p>		
成績評価の方法	感想・質問などのミニレポート提出：40%、試験あるいはレポートで評価：60%		

授業科目	比較文化	担当者	中谷 彩一郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパ文化史</p> <p>【概 要】 ヨーロッパの長い分裂と統合の歴史を、文化的側面から共時的かつ通時的に比較しながら概観する。資料を読んだり、画像や映像を見たりしながら、単なる事項の丸暗記ではなく、ヨーロッパ文化をできるだけ実感できるよう配慮したい。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパ文化の流れを把握し、時代や国による違いが理解できるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント配布		
授業スケジュール	第 1回 ギリシア：ヨーロッパの基層 第 2回 ローマ：ヨーロッパ統合の先駆 第 3回 カロリング・ルネサンス：ローマ文化とキリスト教文化の融合 第 4回 ビザンツ文化：東のローマ 第 5回 中世の文化：ロマネスクとゴシック、大学 第 6回 ルネサンス：人文主義 第 7回 大航海時代：ヨーロッパ世界の拡大 第 8回 宗教改革：カトリックとプロテスタント 第 9回 近代ヨーロッパの成立：主権国家の形成、啓蒙主義 第 10回 17～18 世紀の文化：バロックとロココ、科学革命 第 11回 産業革命と市民革命：ヨーロッパの再編 第 12回 19 世紀の文化：ロマン主義、写実主義、自然主義 第 13回 20 世紀前半：二つの世界大戦とヨーロッパ 第 14回 戦後世界から 21 世紀へ：ヨーロッパ世界の「再統合」 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業中の発言など参加度 (30%) , 筆記試験 (70%)		

授業科目	アジア文化論	担当者	川野 和昭
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 東・南アジアと南九州及び南西諸島の竹の文化の比較。</p> <p>【概 要】 講師自ら行っているラオス北部の少数民族及び南九州、南西諸島のフィールドワークのデータを、「竹の文化」という切り口で、両地域の文化比較を行う。現地で撮影した映像を豊富に用いた講義を行う。</p> <p>【到達目標】 「竹の文化」をキーワードに、東南アジアの文化の特質を明らかにするとともに、日本列島及びアジアにおける鹿児島 の文化的アイデンティティを確認する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストなし。その都度手作りの資料を配布する。		
授業スケジュール	第 1回 本講の概要、目的、方法、評価について。アジア地域の確認 第 2回～第 4回 焼畑文化、特に「竹の焼畑」文化。南九州から南西諸島 第 5回～第 8回 ラオス北部の「竹の焼畑」文化 第 9回～第 11回 稲作儀礼と稲作神話の比較 第 12回～第 14回 竹の生活道具の比較 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	学期末筆記試験 (60%) と授業への意欲 (40%)		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 小栗実編『新検証・日本国憲法』法律文化社 2007年 適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』(平成23年度版)有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回：憲法概論 第2回：基本権総論 第3回：包括的権利 第4回：精神的自由権(1) 第5回：精神的自由権(2) 第6回：経済的自由権 第7回：受益権 第8回：社会権(1) 第9回：社会権(2) 第10回：国会(1) 第11回：国会(2) 第12回：内閣 第13回：裁判所 第14回：財政 第15回：まとめと試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</li> <li>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</li> <li>・幸福追求権、プライバシーの権利、法の下での平等について</li> <li>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</li> <li>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、学問の自由、教育の自由について</li> <li>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</li> <li>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</li> <li>・生存権、環境権、教育を受ける権利について</li> <li>・勤労権、労働基本権、団結権、団体交渉権、争議権について</li> <li>・国権の最高機関、唯一の立法機関、衆議院の優越について</li> <li>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</li> <li>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</li> <li>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</li> <li>・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、予算について</li> </ul>		
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言の記録(10%)を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	数学の世界	担当者	寛山 榮助
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択
テーマ及び概要	<p>【テーマ】数学の世界を理解するための根拠について</p> <p>【概要】数学は言うまでもなく高度に抽象化された理論体系の学問です。われわれは物事の奥に潜んでいる数理的構造の本質を見据え解析し、推論する思考過程を身につける能力を培い育てていくことです。一方、数学を学ぶ過程で修得される種々の概念やそれらを表現し駆使する手段として修練される数式取り扱いの手法や技能は諸科学の研究のみならず人間活動のいろいろな場に応用されています。数学は、知的で文化的な面と技術的で実用的な面を併せ持っていて概念的に論述する場合は前者に力点をおくことが望ましい。すなわち『数学とはなにか』、『何のために数学を学ぶか』等に興味・関心をよせ自問自答しながら講義に臨んで欲しい。</p> <p>【到達目標】1 教科としての数学と学問としての数学について理解を深める。 2 人格形成ならびに社会生活に役立つ数学的ものの見方・考え方を養う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 量的なことを考慮して、特に定めない</p> <p>(2) 興味、関心、意欲養成に適宜提示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 第1章 数学という学問 1 数学の要請：数学的帰納法 第2回 ・デカルトの発見の方法 第3回 2 数学の関数的表現 ・近似多項式の微分表現 第4回 ・マクローリンの定理とテーラー展開の魅力 第5回 3 数学の源と数「0」の発見 ・整数の素数分解の一意性 第6回 ・完全数 ・友愛数 ・婚約数の定義とその発見 第7回 4 三平方の定理の古典数学としての魅力 ・ピタゴラス数の折り紙表現 第8回 5 フェルマーの定理と現代数学 第9回 第2章 経済や社会の動向を探る現代数学 1 行列と次元 ・ケーキ作り 第10回 2 クラメルの定理 ・三元連立一次方程式 第11回 3 経営や生産性の効率性 1 マルコフの推移行列 第12回 2 推移行列とマーケット・シェア 第13回 第3章 現代数学をどう理解するか 1 数学の論証性 第14回 2 ロバチェフスキーの『平行線論』と数学の世界 第15回 「まとめと試験」(定期考査、自分で考える「数学の世界」について小論)</p>		<p>★履修状況調査と感想文</p> <p>★試験と小論</p>
成績評価の方法	定期試験60%(ノートの確認)、興味・関心・態度40%で評価する。		

授業科目	環境問題	担当者	相場 慎一郎・井余田 秀美・野村 俊郎・曾宮 和夫
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】環境問題を、森林(相場)、化学(井余田)、自動車産業(野村)、環境保護行政(曾宮)の四つの視点から考える 【到達目標】環境に関する複眼的思考を養う		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 総論：環境問題の複眼的考察 第2回 森林(1)：森林の役割 第3回 森林(2)：森林と環境 第4回 化学(1)：汚染物質1 第5回 化学(2)：汚染物質2 第6回 化学(3)：汚染物質3 第7回 化学(4)：汚染物質4 第8回 自動車(1)：ハイブリッド 第9回 自動車(2)：EV 第10回 自動車(3)：LCVとULCV 第11回 自動車(4)：発電と蓄電 第12回 環境保護行政(1)：総論 第13回 環境保護行政(2)：屋久島 第14回 環境保護行政(3)：奄美 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	4人の講師の25点満点×4		

授業科目	かごしまカレッジ教育	担当者	松尾 弘徳
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	【テーマ】伝わる日本語とは何かを学ぶ 【概要】自分の頭で考え、そして考えたことを実際に話したり書いたりすることで、下記①②の目標への到達を目指します。この授業では特に「話す・書く」という部分に重点を置き、スピーチや論理的な文章の執筆などを行います。 【到達目標】「相手に伝えたいことをうまく伝えられず友人との人間関係に溝ができてしまった」あるいは「アルバイトの面接などにおいて自己アピールをうまくできず後悔した」というようなことは誰も経験があるのではないのでしょうか。 演習形式の本授業は、主に以下の2つの能力の習得・研鑽を目指します。 ◇ 円滑な対人コミュニケーションを行える能力 ◇ これまでにインプットしてきた内容を適切にアウトプットできる能力 これらの能力を身につけることで、必要な情報を正確に受け取れるようになったり、情報を的確に伝達・表現できるようになったり、あるいは聞き手への十分な気配りが行えるようになり、その結果冒頭に挙げたようなトラブルが生じにくくはらずです。		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 参考文献も授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
業スケジュール	第1回 授業の進め方の説明 第2回 偏愛マップでコミュニケーション 第3回 わかりやすい文章を書く・1-あいまい文 第4回 わかりやすい文章を書く・2-接続詞の上手な使い方 第5回 わかりやすい文章を書く・3-Eメールの文章 第6回 自己紹介をする・1-自分を紹介すること 第7回 自己紹介をする・2-みんなの前で話してみよう 第8回 敬語のしくみ・1-3種類の敬語 第9回 敬語のしくみ・2-間違いやすい敬語 第10回 敬語のしくみ・3-敬語を使いこなすために 第11回 想いを伝える・1-想いを伝えるということ 第12回 想いを伝える・2-手紙の執筆 第13回 想いを伝える・3-スピーチの準備 第14回 想いを伝える・4-自分を人に知ってもらうためのスピーチ 第15回 まとめと試験 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
成績評価の方法	評価基準は次のとおりです。 平素の作業の成果(50%)、学期末に行うまとめテスト(50%) なお、総授業回数の1/3に該当する回数分を欠席した場合、単位は認定しないので留意のこと。 授業計画および授業内容の詳細については初回授業時に具体的に説明します。		

(注) 受講者数は20名を上限とします。

受講希望者が多い場合は抽選となりますが、「かごしま教養プログラム」「かごしまフィールドスクール」受講希望者を優先します。

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバル」を考える文・理のバランスがとれたリベラルアーツ教育を行います。2泊3日の夏季集中授業で、講義とグループ学習(チューターの支援あり)を行います。さらに、夜間はディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要(平成23年度については未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	講義ノート(レポート以外の部分) 30%、グループ討論・発表内容(40%)、レポート(30%)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしまカレッジ教育」の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内12大学の担当教員
		[履修年次] 1年 [学期] 前期集中 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 実習方式	
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考えます。</p> <p>この活動により、鹿児島の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。なお、4,500円程度の宿泊経費等が必要となります。</p> <p>【学習目標】</p> <p>①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を地洋さする。</p> <p>②同地区等のさらなる活性化のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。</p> <p>テーマ別に編成されたグループにおいて、これらの3つの学習目標を達成する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	平成22年度実施概要(平成23年度は未定。若干の変更の予定があります。)		
成績評価の方法	地域学習を通して指定地区等の独自性を調査・認識し、グループ討論・発表とレポート作成を行います。 実地調査等30%(学習目標①)、グループ討論・発表20%と提案内容20%(学習目標②)、レポート30%(学習目標③)として評価を行い、それらを集計して最終評価とします。		

(注) 「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	キャリアデザイン	担当者	担当教員
		[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式及びワークショップ	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生を対象に、卒業後のキャリア形成についての具体的なイメージを描けるようになること</p> <p>【概要】近年の若者を巡る就職状況の厳しさの中、本学の学生も卒業後の進路のイメージは人それぞれである。入学時にすでに明確な就職希望を持っている学生もいるが、自分の興味だけで考えている場合、キャリア構築という点からは一面的な見方しかできていないおそれがある。入学時には興味のなかった様々な職種をできるだけ系統的に紹介し、社会の中で働くことの心構えや具体的な就職準備作業などキャリアデザインに必要な知識理解を系統的に身につけることを目指す。短期的な就職活動だけのためではなく、社会人として自立するために必要な自分なりのキャリアデザインを作り上げていく心構えを育てる助けになるであろう。</p> <p>※1年生は原則として全員受講すること。</p> <p>【到達目標】本講義を通じて、県短生をとりまく就業環境、社会の中で働くことの意味、就職活動の実践的な進め方などを系統的に学んでいただきたい。</p>		
授業スケジュール	<p>〔講師車〕平成22年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期(7月23日) 社会人になる(就職する)ことはなぜ必要なのか、県短を取り巻く就職状況はどうかキャリア教育の総論的な講義を行う。 講師: 森脇丈子(生活科学科准教授), 西村道子(株式会社 昂) 川村美鈴(KTS 鹿児島テレビ)</li> <li>・第2期(9月27,28日) 地域を代表する企業・団体の経営者の話を聞き、働くことの意味、会社組織と学生生活との違いを考える。社会人として要求される発想力・コミュニケーション力をアップするワークショップを体験する。 講師: 田原武志((株)アシップ), 石原美貴(石原興業(株) 石原荘) 前田幸一((株)浜島印刷), 丸田真悟(NPO 法人かごしまアートネットワーク) 小林陸夫(大学生協九州事業連合)</li> <li>・第3期(12月24日) 県短生が多く志望する企業の人事・採用担当者や実際に現場で活躍しているOB・OGから話を聞き、進路イメージを具体化させる。 講師: 北川隆巴(京セラ(株)), 秋葉重登(鹿児島相互信用金庫) 宇都泰礼((株)健康家族), 原田忍((株)エム・ティ・エス) 本学卒業生8人(中学校教員, 栄養士など)</li> <li>・第4期(2月1日) いよいよ実際の就職活動を目前に控えて、労働基準法など社会人として働くために必要な法的知識を身につけるとともに、具体的な就職準備作業を行う。 講師: 疋田京子(商経学科准教授), 学生部学生課職員</li> </ul> <p>※23年度のスケジュール・講師は適宜掲示する。</p>		
成績評価の方法	レポート2回(100%)		

(注) 23年度は3年生も希望者のみ履修可

14 第二部商經学科教養科目  
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につける。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、チャンツ（リズム練習）やパラレルリーディング（音声を聞きながらの音読）などの口頭練習で、楽しみながら英語の音声変化やリズムになれ、「自然な速さの英語を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。リスニング・スピーキングが苦手な人でも楽しめる練習法を取り入れていきます。後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと楽しく海外旅行を擬体験しながら、ナチュラルスピードの会話の聞き取りに慣れ親しむとともに、一人で海外旅行をする際に必要な、基本的で役立つ会話表現やフレーズを学習していきます。さらに、海外旅行で理解しなければならない英語での書類、案内、パンフレットなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音・易しい表現で、情報や自分の考えを伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p>&lt;毎回、LL 教室を使用します&gt;</p> <p>第 1回 授業内容と進め方及び評価の説明 / リスニングとスピーキングのコツ  第 2回 On a Flight: Taking a Seat ~ 機内での過ごし方① ー機内で座席に着くー  第 3回 On a Flight: Mean Service ~ 機内での過ごし方② ー機内での食事ー  第 4回 Immigration ~ 入国の手続き① ー入国審査を受けるー  第 5回 Customs ~ 入国の手続き② ー税関での申告ー  第 6回 Checking in at a Hotel ~ ホテルの利用法① ーホテルにチェックインするー  第 7回 Seeing the Room ~ ホテルの利用法② ー部屋に案内してもらうー  第 8回 Guest Services ~ ホテルの利用法③ ー客室でのサービスー  第 9回 Checking Out ~ ホテルの利用法④ ーホテルをチェックアウトするー  第 10回 Tourist Information ~ 旅行案内所を利用する  第 11回 Taking a City Bus ~ 市内バスに乗る  第 12回 Taking a Taxi ~ タクシーに乗る  第 13回 Renting a Car ~ レンタカーを借りる  第 14回 Asking Directions ~ 道順をたずねる  第 15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語 I (B)	担当者	Simon Runswick
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>The basic theme of this course is everyday communication in a variety of situations.</p> <p>【概要】</p> <p>The class will introduce students to a variety of everyday</p> <p>【到達目標】</p> <p>English, The students will practice this language through various activities.  The course aim is to improve student's communicative abilities.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) ENGLISH FIRSTHAND Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introductions  第 2回 //  第 3回 Describing People  第 4回 //  第 5回 Schedules  第 6回 //  第 7回 Locations  第 8回 //  第 9回 Directions  第 10回 //  第 11回 Past activities  第 12回 //  第 13回 The Past  第 14回 //  第 15回 Review</p>		
成績評価の方法	The class will be assessed on weekly performance and a final test.		

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	土持 かおり
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ナチュラルスピードの英語での会話の聞き取りに慣れるとともに、海外旅行で役立つ会話文やフレーズを身につけ、自分でも使えるようになる。</p> <p>【概要】授業の前半では、洋楽を使ったエクササイズや、パラレルリーディングやシャドーイングなど耳と口の両方を使った口頭練習で、英語の音声変化やリズムになれ、「自然な速さの英語を聞き取るコツ」・「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。リスニング・スピーキングが苦手な人でも楽しめる練習法を取り入れていきます。</p> <p>授業の後半では、海外旅行英会話学習用のビデオ教材で、主人公ハルコと一緒に海外旅行で遭遇する様々な場面を楽しく疑似体験しながらリスニング力をつけるとともに、役立つ会話表現やフレーズを学習し、一人でも海外旅行を楽しめる程度の英語力をつけていきます。さらに、海外旅行で理解しなければならぬ英語での案内文、地図、メニューなどから素早く必要な情報を読み取る練習をしていきます。</p> <p>【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、ナチュラルスピードに近い自然な英語での情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、情報や自分の考えを伝えられるようになる。</p>		
(1) テキスト	佐藤公雄編著 『First Time Abroad ー初めての海外旅行ー』 (成美堂)		
授業スケジュール	<p>&lt;毎回、LL教室を利用します&gt;</p> <p>第1回 授業内容と進め方及び評価の説明 / リスニングエクササイズ  第2回 At a Museum ~美術館にて  第3回 At a Golf Shop ~ゴルフ・ショップにて  第4回 Going to the Theater ~劇場に行く  第5回 At a Department Store ~デパートで買い物をする  第6回 Shopping for a Souvenir ~おみやげを買う  第7回 Breakfast at a Hotel ~ホテルで朝食  第8回 Lunch at a Fast-Food Place ~ファーストフード店でランチ  第9回 Making a Dinner Reservation ~夕食の席を予約する  第10回 Dinner at a Restaurant ~レストランで夕食  第11回 At a Post Office ~郵便局を利用する  第12回 Making a Phone Call ~日本へ国際電話をかける  第13回 Lost and Found ~落とし物で遺失物取扱所へ行く  第14回 Going to a Doctor ~医者にかかると  第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業への参加と取り組み (20%) + 復習のための小テスト (30%) + 定期試験 (50%)		

授業科目	英語Ⅱ(B)	担当者	Simon Runswick
		[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The basic theme of this course is everyday communication in a variety of situations.</p> <p>【概要】 The class will introduce students to a variety of everyday</p> <p>【到達目標】 English, The students will practice this language through various activities. The course aim is to improve student's communicative abilities.</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) ENGLISH FIRSHTHAND Marc Helgesen et al. Longman Asia ELT		
授業スケジュール	<p>第1回 Asking personal question  第2回 "  第3回 Getting Information  第4回 "  第5回 Plans  第6回 "  第7回 Predictions  第8回 "  第9回 Shopping  第10回 "  第11回 Following instructions  第12回 "  第13回 Opinions  第14回 "  第15回 Review</p>		
成績評価の方法	The class will be assessed on weekly performance and a final test.		

授業科目	異文化コミュニケーション（英語）	担当者	英語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで研修を行う。授業は英語研修とアメリカ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2010年度ハワイ研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/3(金)～9/19(日)</li> <li>・参加者 14名</li> <li>・研修費用 約29万円(授業料, 往復航空券, 滞在費, 朝食と昼食の食費, 保険料)</li> </ul> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジの担当教員が指示		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学コミュニティカレッジでの研修内容の説明, 海外渡航に伴う種々の事柄を説明, 前もって課題(レポート作成)の指示。</p> <p>海外研修 9月を予定(約2週間), 現地の大学で午前中に英語の授業, 午後に文化に関する授業(フラダンス, レイ作り, ハワイの文化, ハワイの植物), その他学外授業としての見学。</p> <p>事後指導 帰国後に総括</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題(研修日誌, 体験記)(50%)とハワイでの研修状況(50%)で評価する。		

授業科目	異文化コミュニケーション（中国語）	担当者	中国語担当教員全員
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2010年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日程：8月28日(土)～9月11日(土) [15日間]</li> <li>・参加者：13名(文学科日本語日本文学専攻5名, 英語英文学専攻2名, 商経学科経済専攻3名, 経営情報専攻3名)</li> <li>・費用：約14万円(授業料, 往復航空券, 寮の滞在費, 南京市内・市外の見学費用)</li> </ul> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。		
授業スケジュール	<p>事前指導 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明,</li> <li>[2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明,</li> <li>[3] 課題(レポート作成)の指示などです。</li> </ol> <p>海外研修 9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>		
成績評価の方法	担当教員が課した課題, および中国での学習成果を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年                      [学期] 前期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 選択                      [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 楽しい中国語会話  <b>【概 要】</b> 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。  <b>【到達目標】</b> 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1) テキスト (2) 参考文献	テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回 我是上海人 第 2回 我叫王平 第 3回 这里是南京路 第 4回 现在几点了? 第 5回 今天是星期几? 第 6回 你家有几口人? 第 7回 没关系 (中間テスト) 第 8回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9回 四川菜很好吃 (映画) 第 10回 我经常散步 第 11回 牌价是多少? 第 12回 汉语难不难? 第 13回 我没吃蒜 第 14回 我想去超市 第 15回 テスト		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	未定
	[履修年次] 1年                      [学期] 前期 [単位] 1単位                      [必修/選択] 選択                      [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b>  <b>【概 要】</b>  <b>【到達目標】</b>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
成績評価の方法			

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳 躍
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概 要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK基礎1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>参考文献①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク</p> <p>②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 来我家玩吧</p> <p>第 2回 我打算去旅行</p> <p>第 3回 没看过, 听过</p> <p>第 4回 我能参加</p> <p>第 5回 我记一下</p> <p>第 6回 我们边走边谈</p> <p>第 7回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第 8回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第 9回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第 10回 什么都可以</p> <p>第 11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第 12回 让你久等了</p> <p>第 13回 有没有单间?</p> <p>第 14回 我说得不好</p> <p>第 15回 テスト</p>		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ(B)	担当者	未定
	〔履修年次〕 1年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 演習方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概 要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献			
授業スケジュール	<p>第 1回</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>		
成績評価の方法			

15 第二部商経学科教養科目  
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ	担当者	瀬戸口 照夫・長岡 良治
	[履修年次] 1年                      [学期] 前期, 後期 [単位] 各期1単位                      [必修/選択] 必修                      [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 学生の身体運動の減少は、健康的な生活や好ましい身体の発達に悪影響を及ぼしかねない。したがって、将来にわたって実践しうる基礎的運動技術の習得が目標である。</p> <p><b>【概要】</b> 実技では、屋外でテニス、サッカー、ソフトボール、屋内では、バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、ミニサッカー等を課す</p> <p><b>【到達目標】</b> それぞれの種目の基礎的運動技術を習得しゲームが出来るようになることが最終目標である</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定		
授業スケジュール	選定した種目の基礎技術の練習をした後、ゲームを中心に実施する。 例 1, バドミントン ハイクリヤー, ドロップ, スマッシュ, ヘヤビンの練習後ゲームを実施する。 2, バレーボール, ソフトバレーボール パス, スパイク, サーブの練習後にゲームを実施する。 3, バスケットボール, ミニサッカー パス, シュート練習後ゲームを実施する。 4, テニス フォアハンドストローク, バックハンドストローク, ボレー, サーブの基礎練習後ゲームを実施。		
成績評価の方法	出席状況(50%), 基礎技術 (50%) 受講態度(25%) 運動技能能力(25%)		

16 第二部商經学科教養科目  
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。使用するアプリケーションソフトは「Microsoft Word」とし、Wordの基本操作も習得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> タッチタイピングの習得、基本的な文書作成能力の習得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 富士通オフィス機器株式会社 (著) 『よくわかる初心者のための Word 2007』 FOM 出版</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 パソコンの基本操作・・・概要説明、起動と終了、ウィンドウ操作、Wordの画面構成</p> <p>第2回 文字の入力・・・キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第3回 文章の入力・・・キータッチ練習、文章の入力(分節単位の変換、一括変換)</p> <p>第4回 文書の作成・・・ビジネス文書の構成について、ページ設定、文章の入力、コピーと移動、保存</p> <p>第5回 文書の編集・・・文書の書き方について、文字の配置、書式設定(フォント、サイズ変更、太字など)</p> <p>第6回 通知状の作成・・・課題文書作成(通知状)、印刷</p> <p>第7回 表の作成・・・文書管理について、表の挿入、表への文字入力、表の選択</p> <p>第8回 表の編集・・・行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、網掛け、線種変更</p> <p>第9回 表の活用・・・課題文書作成(表を含む文書)</p> <p>第10回 図形挿入・・・図解について、図形挿入を使った地図の作成</p> <p>第11回 案内状の作成・・・課題文書作成(案内状)</p> <p>第12回 画像の利用・・・クリップアートの挿入、ワードアートの挿入、図の挿入</p> <p>第13回 チラシの作成・・・課題文書作成(チラシ)</p> <p>第14回 総合復習・・・これまで学習した機能を利用した文書作成</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	定期試験(知識科目20%+実技科目60%) + 授業ごとに実施する課題(20%)		

授業科目	情報リテラシー II	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1単位 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 普段何気なく使っているパソコン・アプリケーションの、仕組みや基本操作を確認する。</p> <p><b>【概要】</b> Windows 7 の概念・基本操作を習得し、それをあらゆるアプリケーションに活用する。</p> <p><b>【到達目標】</b> ファイル操作、インターネット閲覧・操作(メールを含む)、アプリケーションの活用が確実にできる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料プリント</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 現在のパソコン活用状況の確認</p> <p>第2回 基本操作(画面の見方・用語の確認)</p> <p>第3回～第4回 メール操作(学内推奨のWebメール・Thunderbirdを使用)</p> <p>第5回～第6回 ファイル・フォルダ操作</p> <p>第7回～第8回 インターネットを活用</p> <p>第9回～第10回 デジカメ・画像を活用</p> <p>第11回～第13回 その他の便利な機能</p> <p>第14回～第15回 前期習得操作のまとめ</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況(80%) + レポート提出(20%)		

授業科目	情報リテラシーⅡ	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> コンピュータを道具として使える力を持つよう</p> <p><b>【概要】</b> 現代は様々な情報がネットワークを介して飛び交っている情報ユビキタス社会である。我々はその中に生活し、情報を受信し、情報を発信しなければならない。その大きな窓口がコンピュータである。この時間ではコンピュータとはどのような機械なのか、どのようにしたら情報を受信し、発信する道具として使えるのか、演習をとおして初歩の初歩から体得しようとするものである。</p> <p><b>【到達目標】</b> そこにコンピュータがあるなら、それを臆せず使う気持ちを持たせる</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) ビデオ教材やホームページ上の記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 コンピュータを起動しよう。OSってなんだろう。</p> <p>第2回 ビデオを介して、インターネットとは何か理解しよう</p> <p>第3回 ブラウザの基本的使い方</p> <p>第4回 Webメールの送受信</p> <p>第5回 ファイルとフォルダ</p> <p>第6回 フラッシュメモリを使おう (メールソフトを使ってメールしよう)</p> <p>第7回 ホームページを作ってみよう</p> <p>第8回 クリックひとつで次のページへ</p> <p>第9回 ペイントで描いた画像をページへ</p> <p>第10回 携帯から写メール</p> <p>第11回 HTMLあれこれ</p> <p>第12回 ホームページに自分のギャラリー (1)</p> <p>第13回 ホームページに自分のギャラリー (2)</p> <p>第14回 プレゼンでまとめよう (1)</p> <p>第15回 プレゼンでまとめよう (2)</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開したホームページとプレゼン作品 (50%) により評価する		

## 17 第二部商経学科専門科目

授業科目	経済学	担当者	内田 昌廣
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複雑化した現代社会に生きる私たちにとって、様々な経済事象を理解できる力 = 「経済知力」の重要性はますます高まっている。本講義では、経済学の入門講座として、経済学的な見方・考える力を身につけるための基礎力を養う。</p> <p>【概要】 経済を構成する消費者、企業、政府の行動理論を学び、これらの経済主体を結び付けているさまざまな市場や国民経済全体の成り立ち・仕組みについての理解を深める。本講義で修得する知識をベースとして、経済関連の他科目でのより深い理解に繋げる。</p> <p>【到達目標】 経済学の基本的な考え方を理解し、経済の仕組みや動きについての全般的な基礎知識を習得すること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 野口旭『ゼロからわかる経済の基本』講談社現代新書、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步』晃洋書房、吉本佳生・NHK『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会(NHK出版)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：経済って何だろう（欲求と経済、経済の主役、限りある資源、トレードオフ） 第2回 市場経済の仕組み（1）：資本主義・市場経済とは？、消費者や企業はどのように買う量や売る量を決めるのか？ 第3回 市場経済の仕組み（2）：買う量や売る量を変化させるものは？、需要と供給はどのようにして一致するのか？ 第4回 市場経済の仕組み（3）：市場で交換を行うことのメリットは？— 当事者の満足度、資源の効率的な配分 第5回 市場経済の仕組み（4）：価格は誰が決める？、不完全な市場とは 第6回 企業の様々な価格戦略：価格差別、二部料金制、ディスカウントストア、歩合制家賃 第7回 国全体の経済の仕組み（1）：国内総生産（GDP）って何だろう、GDPの3つの側面とは、GDPの大きさを決めるものは？ 第8回 国全体の経済の仕組み（2）：好景気と不景気のサイクル（景気循環）が起こる理由、インフレ・デフレとは 第9回 国全体の経済の仕組み（3）：お金の経済学 — 金融の仕組み、金利の決め方 第10回 国全体の経済の仕組み（4）：海外との取引 — 自由貿易の理論、国際収支の仕組み、為替レート（円高・円安）とは 第11回 国全体の経済の仕組み（5）：政府の役割 ① — 貯蓄のパラドックス、公共投資や減税の効果、財政政策の「落とし穴」 第12回 国全体の経済の仕組み（6）：政府の役割 ② — 市場の失敗、所得再分配 第13回 国全体の経済の仕組み（7）：日本銀行の役割 — 金融緩和と金融引き締め 第14回 マルクス経済学概論：マルクスが分析した資本主義経済、剰余価値説、資本主義についての歴史観 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	社会学	担当者	斉藤 悦則
	[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会学の基本概念を学ぶ</p> <p>【概要】 社会学の諸概念を道具として、身の回りの諸現実を新たな視点で見つめ直してみる。そうすると、いままで当たり前のことのように見えていたものが、意外に「変なこと」「怪しいこと」のように見えてくる。</p> <p>【到達目標】 常識に囚われて、硬直していた発想が、社会学を学べば柔軟になる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会学のおもしろさ……潜在機能 第2回 不良になろう……ラベリング 第3回 まなごしの地獄……一般化された他者 第4回 情報に踊らされる……予言の自己成就 第5回 格差のメカニズム……準拠集団 第6回 空気を読めってか？……他者志向 第7回 血液型とか信じる？……自由からの逃走 第8回 愛のジレンマ……社会的交換理論 第9回 わかりやすさの罠……疑似環境 第10回 オーラが消える……複製技術革命 第11回 コミュニティへの回帰……ゲメインシャフト 第12回 学校に行くとかバカになる……制度化 第13回 セクシーとは何か……稗の構造 第14回 事なかれ主義……官僚制 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文 (100%)		

授業科目	行政法	担当者	山本 敬生
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則）、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約、行政上の義務履行確保制度、行政手続等をわかりやすく解説し、行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原理、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 適宜、プリントを配布する。 (2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年		
授業スケジュール	第1回 法律による行政の原理 第2回 行政立法 第3回 行政行為(1) 第4回 行政行為(2) 第5回 行政指導 第6回 行政上の義務履行確保制度 第7回 行政手続法 第8回 行政不服申立て 第9回 行政事件訴訟法(1) 第10回 行政事件訴訟法(2) 第11回 行政事件訴訟法(3) 第12回 国家賠償法(1) 第13回 国家賠償法(2) 第14回 損失補償 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	経済政策	担当者	内田 昌廣
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位	〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国民の社会生活の向上を目的として行われる経済政策について、その考え方・政策手段・課題に関する基礎を学習する。</p> <p>【概要】経済政策が必要とされる背景、経済政策に関する思想、伝統的な経済政策の概要から、現代社会における新しい政策課題まで幅広く取り上げて解説し、自分なりに経済政策を評価できる基礎力を養う。</p> <p>【到達目標】主要な経済政策の意義や政策手段の概要について理解し、その限界や課題について関心や自分の意見を持てるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 山口三十四・足立正樹・丸谷冷史・三谷直紀『経済政策基礎論』有斐閣ブックス 大竹文雄『経済学的思考のセンスーお金がない人を助けるには』中公新書		
授業スケジュール	第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：なぜ人々の自由な経済活動に、政府が介入する必要があるのだろうか？ 第2回 経済政策の思想：政府が何にどこまで介入（関与）すべき？— 新自由主義と新社会主義、大きな政府と小さな政府 第3回 成長と安定の経済政策（1）：成長のための経済政策 — 成長政策の手段、発展途上国と経済成長 第4回 成長と安定の経済政策（2）：安定のための経済政策 — 雇用の改善と物価安定、安定化政策の手段、安定化政策の課題 第5回 所得と資産の分配政策（1）：所得分配の格差を測る方法、望ましい分配の基準とは 第6回 所得と資産の分配政策（2）：分配政策の手段（課税制度、社会保障制度）、分配政策の効果と課題 第7回 産業政策（1）：産業政策の必要性、外部性と産業政策（産業育成政策、知的財産権の保護政策）、公共財の供給 第8回 産業政策（2）：自然独占と規制政策、公益企業の規制緩和と民営化 第9回 産業政策（3）：情報の非対称性と経済政策、市場支配力と独占禁止政策 第10回 労働政策（1）：労働政策の必要性、労働政策の歴史、失業に対する政策 第11回 労働政策（2）：女性雇用・高齢者雇用・若年雇用に対する政策 第12回 農業と人口問題：グローバル化と農業問題、少子高齢化と年金問題 第13回 環境政策：環境税、温暖化ガスの排出権取引、太陽光発電の推進 第14回 グローバル経済と経済政策：自国利益と国際協調、地域経済統合と経済政策、政策協調による新たな国際ルール作り 第15回 まとめと試験 （※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります）		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	社会政策	担当者	朝日 吉太郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 格差や貧困はなぜ生まれるか、どうなくすか考える。</p> <p>【概要】 資本主義社会において、賃金や雇用条件の改善、社会保障の充実が、なぜ求められ、どのように発展してきたのか、そして、今日なぜ格差拡大と社会保障削減が進むのかを分析し、その理由と問題性、解決課題をさぐります。</p> <p>【到達目標】 資本主義が作り出す貧困や格差の特徴をその原因から法的にとらえ、今日の社会を生きるためには、何を考える必要があるのかという視点を獲得すること</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 特に定めない</p> <p>(2) 後藤道夫・木下武男「なぜ富と貧困はひろがるのか 格差社会を変えるチカラをつけよう」旬報社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義の目的と進め方について：</p> <p>第2回 資本と賃労働 : 資本賃労働関係の理論的把握</p> <p>第3回 賃金(1) 賃金形態 : 賃金についての俗説を批判する。</p> <p>第4回 賃金(2) 時間賃金・出来高賃金 : 賃金形態の発展とその影響をとらえる。</p> <p>第5回 資本主義的生産と労働時間の延長 : 資本が労働日を延長する基本法則を理解する</p> <p>第6回 標準労働日を巡る闘争と工場法体系 : 産業革命による労使の力関係の変化と社会政策形成史を理解する</p> <p>第7回 社会政策本質論争の特徴と限界 : 社会政策本質論争の理論的問題点を検討する</p> <p>第8回 直接的生産方式の諸結果と貧困化論の新たな可能性 : 貧困化論の問題点を検討する。</p> <p>第9回 社会政策と国家 : 国家の一政策としての社会政策を理解するために国家論を検討する</p> <p>第10回 帝国主義と協同的労使関係 : 現代資本主義の下での労使関係の特徴を検討する</p> <p>第11回 福祉国家 : 社会政策の総合大系としての福祉国家の意味をとらえる</p> <p>第12回 ケインズ革命の終焉—社会政策から総合社会政策へ : ケインズ政策の限界と社会政策の経済政策化をとらえる</p> <p>第13回 新自由主義と福祉国家のゆらぎ : 今日のグローバル化の下での福祉国家政策の転換をとらえる</p> <p>第14回 グローバル化とフレキシキュリティ政策の可能性 : 労働者の処遇抑制、福祉抑制の中で何が生じているかを理解する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	論述試験 (100%)		

授業科目	社会思想	担当者	斉藤 悦則
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ばらばらの個人の集まりが、社会として「まとまっている」、その根拠について考える。</p> <p>【概要】 社会はどうしてまとまっているか、それについて、さまざまな考え方(思想)を紹介する。それらの思想は、それぞれ「もってもらしさ」を備えている。しかも、相互に対立し合う。このことを通じて、世の中に「大正解」はない、ということ学ぶ。</p> <p>【到達目標】 もってもらいし学説(お説教)に、容易に丸め込まれない思考力を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 社会のまとまり……ホップス</p> <p>第2回 自分が人生の主人公……ロック</p> <p>第3回 文明の進歩=徳性の下落……ルソー</p> <p>第4回 生産力主義……サン・シモン</p> <p>第5回 労働を遊びに変える……フーリエ</p> <p>第6回 労働をとおして成長する……ブルードン</p> <p>第7回 近代人の疎外……フォイエルバッハ</p> <p>第8回 群衆への埋没をまぬがれる……キルケゴール</p> <p>第9回 自立しつつ連帯する……マルクス</p> <p>第10回 異見の有用性……J・S・ミル</p> <p>第11回 絶対自由主義……バクーニン</p> <p>第12回 国家という暴力装置……レーニン</p> <p>第13回 敵の敵は味方……カール・シュミット</p> <p>第14回 多様性が豊かさの源……レヴィ・ストロース</p> <p>第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごとに実施する小論文 (100%)		

授業科目	民法	担当者	疋田 京子
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「外国人」という存在を鏡として「民法」を学ぶ</p> <p>【概要】民法は、契約や損害賠償請求、婚姻、親子、相続など私たちが「他者」と共に生活する日常生活に深く関わっている。国籍に基づくナショナルや民族に基づくエスニックを異にする外国人を、共に生活する他者として位置づけ、民法における「人」の処遇のあり方、「人」の生活を支える法規範や制度のあり方、生成の様子を検討し、「民法」とは何かの全体像をつかむ。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 大村敦『他者とともに生きる 民法から見た外国人法』（東京大学出版会）		
授業スケジュール	第 1回 外国人と民法～導入 ；二つの訴訟（東京都昇進訴訟、小樽温泉訴訟） 第 2回 現代日本の外国人：外国人が直面している法律問題 第 3回 民法典における外国人に関する規定：内外人平等の原則をめぐる論争 第 4回 民法学と外国人：外国人の識別と同定 第 5回 外国人の基本的処遇：出入国管理、在留資格、法的人格、参政権 第 6回 外国人の家族生活（1）家族関係と準拠法、婚姻関係における外国人の固有の問題 第 7回 外国人の家族生活（2）「外国人法」における「親子」 第 8回 外国人の家族生活（3）その他の家族関係、「家族」の処遇と「家族」の意義 第 9回 外国人の労働：制度と実情、法的対応 第 10回 外国人就学生をめぐる問題 第 11回 外国人の日常生活：住まい・買い物、問題の所在と基本的な考え方 第 12回 外国人の事故をめぐる問題：民事責任と保険、損害額の算定、外国人不法就労者の場合 第 13回 外国人の多様性・日本人の多様性：戦後日本の「外国人」、明治二本の「日本人」 第 14回 外国人と市民＝社会と法の将来 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義ごとに提出してもらおう小レポート（30点）＋試験（70点）		

授業科目	商法	担当者	板倉 大治
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代企業の組織・活動と法</p> <p>【概要】現代の経営は、ある程度大きな資本を用い、従業員を雇用して、多方面に、あるいは広い地域で事業を展開しています。それに伴って生じる様々なリスクを避けるため、たとえば「会社」組織を利用して出資者の危険を分散し、会社役員や従業員の行為に対する企業の責任を制限し、消費者との契約条項に企業側の責任の軽減・免除を定めたりしています。しかし、大企業の行き過ぎたリスク回避策は、取引相手である中小・零細企業や顧客・消費者など一般公衆の利益を圧迫し、あるいは環境問題を引き起こしたりします。そのような対立する利益の調整をはかり企業行動の規範を定めているのが商法です。</p> <p>商法は、企業取引を安全・円滑・迅速に行うための合理的な企業組織について規律を設けていますが、それらの現状と問題点を裁判例や最新のトピックを参照しながら検討します。</p> <p>【到達目標】</p> (1) 民法・一般法人法のほかに、商法・会社法が設けられている理由やその役割を説明できる。 (2) 企業取引を安全・円滑・迅速に行うための諸制度について、その特色を説明できる。 (3) 国際化や情報技術化など、現代社会の要請に応える諸制度について、その概要を説明できる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 荻井・平田編『新現代商法入門(第3版)』（法律文化社2900円）を使用し、講義プリントを併用します。 (2) 岩波書店・セレクト六法(1365円)などの小型六法全書を持参してください。		
授業スケジュール	第 1回 企業法としての商法（商人・商行為の概念） 第 2回 企業の成立と商法の適用範囲 / 商法の基本原則 第 3回 商業登記と電子化社会 第 4回 商号自由主義とその制限—CI 戦略と商号— 第 5回 名板貸（名義貸し）の責任 第 6回 商号権によるブランドの保護—不正競争の防止— 第 7回 営業譲渡とその効果 / 営業所について 第 8回 商業使用人—商業代理人制度— 第 9回 企業会計と商法—会計帳簿・書類の電子化— 第 10回 企業取引と普通取引條款 第 11回 消費者取引の規制—特定商取引法・製造物責任法— 第 12回 会社法の基礎（その1） 第 13回 会社法の基礎（その2） 第 14回 有価証券法の基礎 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験の成績によって評価します（100%）。受験資格として3分の2以上出席して下さい。		

授業科目	産業心理学	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 産業にかかわる心理学を多角的に学ぶ</p> <p><b>【概要】</b> 産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。 簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p><b>【到達目標】</b> 商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 インターフェイスと精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係 第9回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回 販売と購買心理：販売のテクニックと消費者の購買心理 第12回 説得と印象管理：コミュニケーションにおける説得と印章管理 第13回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（通常のレポート2回分が80%、授業中のショートレポートが20%）		

授業科目	簿記論 I	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択 (注1)	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式（黒板とパワーポイントの併用）
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 複式簿記の仕組みの理解</p> <p><b>【概要】</b> みなさんは、これまでに一度くらい「小遣帳」や「家計簿」などをつけた経験があると思います。「小遣帳」では、何をいつ買ったか（現金収支とその明細）くらいしか記入しなかったと思います。 しかし、利益の獲得を目的としている企業がつけている帳簿では、現金収支に限らずさまざまな取引を記帳しています。会社はさまざまな取引を記帳するために「複式簿記」と呼ばれる記録・計算の技術を用いています。 この複式簿記の仕組み（原理）を理解することがこのコース（科目）の目的です。</p> <p><b>【到達目標】</b> 複式簿記の仕組みを理解し、初歩的な会計の知識を獲得する、日商簿記3級レベルの簿記一巡の手続きを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、簿記とは、簿記の用語 第2回 基礎1：資産・負債・資本と貸借対照表 第3回 基礎2：収益・費用と損益計算書 第4回 基礎3：取引と勘定記入 第5回 基礎4：仕訳 第6回 基礎5：転記 第7回 復習、小テスト1 第8回 基礎6：試算表 第9回 基礎7：決算1 第10回 基礎8：決算2 第11回 基礎9：損益計算書、貸借対照表の作成 第12回 基礎10：精算表 第13回 復習、小テスト2 第14回 復習、小テスト3（講義の進み具合で、調整等を行う場合があります） 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および最終試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2011年度後期に開講されるコンピュータ会計、2012年度後期に開講される財務会計論を履修する予定の学生は、必ず、簿記論I、IIを履修してください。



授業科目	文書作成実習	担当者	永仮 ゆかり
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 情報機器を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p><b>【概要】</b> 情報機器を活用し、実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成）対策を行い、資格取得を目指す。使用するアプリケーションソフトは前期同様「Microsoft Word」とし、Wordの応用機能も習得していく。</p> <p><b>【到達目標】</b> 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルのスキルの習得）</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 富士通オフィス機器株式会社(著)『日商PC検定試験 文書作成 3級完全マスター』POM出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 前期の復習・・・・・・・・概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第2回 社外文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書の基礎知識、社外文書の作成（案内状） 第3回 社内文書の作成・・・・・・・・ビジネス文書のライティング技術、課題文書作成（表を利用した文書の作成） 第4回 ネット社会の特徴・・・・・・・・ネット社会の特徴について、社内文書の作成（連絡文書） 第5回 デジタル情報の整理法・・・・・・・・デジタル情報の整理法について、計算式を含む文書の作成 第6回 図解の利用・・・・・・・・ネット関連の法律について、課題文書作成（図解を利用した文書） 第7回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第8回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第9回 検定対策・・・・・・・・文書作成3級検定模擬問題演習（知識科目、実技科目） 第10回 表の編集・・・・・・・・行の挿入、コピー、セルの結合、分割、線種の変更など 第11回 文書の編集・・・・・・・・いろいろな応用機能（段組み、タブ、ヘッダー・フッターなど）、課題文書作成 第12回 議事録の作成・・・・・・・・議事録の作成（スタイルの設定、セクション区切りの挿入など） 第13回 報告書の作成・・・・・・・・課題文書（報告書）の作成（テンプレートの利用、Excelデータの取り込みなど） 第14回 総合復習・・・・・・・・これまでに学習した機能を利用した文書作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	定期試験（知識科目20%+実技科目60%）+授業ごとに実施する課題（20%）		

授業科目	統計学	担当者	寛山 榮助
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 集団や自然現象の実態把握を目的とする統計手法とは何か。</p> <p><b>【概要】</b> 統計学の源を辿ると概ね、次の3つに分類できる。第1はドイツの国勢学派、第2はイギリスの政治算術派、第3は主としてフランスの古典確率論である。統計学の父と呼ばれている、コーリング（1696～1681）がドイツの大学で講義したとき、国家の状態に関する学問という意味で、ラテン語の「state, 国家」という言葉を用いた。この言葉が今日、ヨーロッパのstatistics（統計学）の語源となっている。</p> <p>現代では、統計学は、数学の応用として、集団に関する研究をする学問であるとみなされている。</p> <p>自然災害と呼ばれている地震災害や風水災害等の偶然に起こる偶然現象、自然界で営まれている動植物に関する生命現象等の問題解決のためにも、理解を深められるような項目を精選した。意欲のある学生を歓迎します。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1 分散・標準偏差・相関係数についての統計手法の重要な意義を理解し、その算法に習熟する。 2 正しくデータを読みか態度から生じた記述統計学と推測統計学の意義を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 量的なことを考慮して、特に定めない。 (2) 興味・関心・意欲養成に適宜提示する。		
授業スケジュール	第1回 第1章 統計学の概要 1 古典統計学 第2回 2 近代統計学 (1) 記述統計学 (2) 推測統計学 3 現代統計学 第3回 第2章 統計資料の整理 1 度数分布 2 平均値と標準偏差 第4回 ・平均値 ・分散と標準偏差 第5回 3 例題演習 第6回 4 1次変換による平均値、標準偏差の役割 第7回 ・度数分布表に基づいた平均値、標準偏差の算法 第8回 5 相関関係と回帰方程式 ・相関 ・相関表 ・相関図 回帰直線 第9回 ・相関係数の定義とその性質 ・共分散 ・相関係数に関する定理 第10回 6 1次変換による相関係数の不変性 第11回 ・度数分布表に基づいた相関係数の算法 第12回 7 回帰直線の方程式 ・回帰係数の定義 回帰直線を描く 第13回 第3章 正規分布とガウス曲線 第14回 ・標準正規分布曲線 第15回 まとめと試験（定期考査、感想文）	★アンケート感想文	
成績評価の方法	【達成目標】定期試験60%（ノート整理がポイント）、関心・意欲40%で評価する。		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村 俊彦
	[履修年次] 2, 3年 [単位] 1単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】 1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する 3) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。</p> <p>【到達目標】 ・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p> <p>☆注意事項：ワープロや表計算ソフトの基礎的な使用法を習得した学生を対象とする。パソコン初心者の履修は不可。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリントを配布, Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第1回 概要説明 第2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第6回 提案書作成1：インターネットによる費用検索 第7回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第8回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第9回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第10回 ホームページ作成1：USBメモリへのソフトの導入、HTML概念の復習。 第11回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第12回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第13回 ホームページ作成4：ページ公開 第14回 予備 第15回 まとめ		
成績評価の方法	レポート（3つの課題を総合的に評価：100%）		

授業科目	PCデータ活用	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト Microsoft Excel 基本操作の習得</p> <p>【概要】 表計算ソフト Microsoft Excel を使用し、作表や表計算といった基本操作はもちろんのこと、一歩進んだ操作知識や、効率的に作業を進めるための応用力を身につけられるような技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト Microsoft Excel の基本操作を確実に習得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 Excel 基本操作確認 第2回～第3回 編集機能の活用、関数（合計・平均）の設定、書式設定などで見やすい表にする 第4回～第8回 計算式の設定の仕方・関数の設定（傾斜・条件など） 第9回～第11回 グラフ作成、編集 第12回～第13回 データベース機能 第14回 ピボットテーブル、ピボットグラフの作成 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業内での操作状況（70%）＋試験（30%）		

授業科目	PC データ活用実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 取得操作の実践活用</p> <p><b>【概要】</b> 前期習得した内容を活用出来るよう、さまざまな実践問題に取り組む。</p> <p><b>【到達目標】</b> PC検定（データ活用）の3級・もしくは2級の取得</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 編『30時間でマスターWindowsVista 対応 Excel2007』実教出版</p> <p>(2) 資料プリント</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回～第14回 演習</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	授業内での操作状況 (40%) + 授業内小テスト (30%) + 試験 (30%)		

授業科目	PCアプリケーション実習	担当者	瀬戸 博幸
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> コンピュータを道具として使う力を持つ</p> <p><b>【概要】</b> パソコンは非常に有効な機械であり、OSの発達により格段に使いやすくなった。これを仕事に活用するときアプリケーションソフトの存在が見えてくる。昨今、特にHTML5の登場を契機にWebブラウザをアプリケーションの基盤として使おうとする傾向が見えてきている。そこでJavaScriptを用いてブラウザを制御する実習を通してアプリケーションについて考えてみることにする。</p> <p><b>【到達目標】</b> 各アプリケーションソフトがどのような役割を担っているか考える力をもたせる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) ホームページで紹介されているJavaScriptの記事を参考資料とする</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ホームページにアニメーションを取り入れよう (オリエンテーション)</p> <p>第2回 JavaScriptの紹介 (1) HTMLにJavaScriptを組み入れる</p> <p>第3回 JavaScriptの紹介 (2) 繰り返しの処理はどのように行われるのか</p> <p>第4回 JavaScriptの紹介 (3) ソースにコメントをつけよう</p> <p>第5回 JavaScriptの紹介 (4) 画像の位置を制御</p> <p>第6回 JavaScriptの紹介 (5) 画像を動かしてみよう</p> <p>第7回 JavaScriptの紹介 (6) 簡単なゲームにしてみよう</p> <p>第8回 JavaScriptの紹介 (7) 簡単なゲームにしてみよう (その2)</p> <p>第9回 自分でやってみよう (1) 構想</p> <p>第10回 自分でやってみよう (2) 作画</p> <p>第11回 自分でやってみよう (3) アニメーション化</p> <p>第12回 自分でやってみよう (4) アニメーション化</p> <p>第13回 自分でやってみよう (5) アニメーション化</p> <p>第14回 自分でやってみよう (6) ホームページで公開</p> <p>第15回 まとめ アプリケーションソフトって何だろう</p>		
成績評価の方法	メールによる日々の考察 (50%) + 公開した作品 (50%) により評価する		

授業科目	PC アプリケーション実習	担当者	口脇 淳子
	[履修年次] 1年 [単位] 1単位	[学期] 後期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 主なアプリケーションソフトの活用</p> <p>【概要】 主に3つのアプリケーションソフトを体験し、パソコン活用の幅を広げる。</p> <p>【到達目標】 習得した各ソフトを利用してそれぞれ課題に基づいた作品（データ）を完成させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 資料プリント (2)		
授業スケジュール	第1回～第5回 プレゼンテーション作成（発表を含む） 第6回～第10回 ホームページ作成 第11回～第15回 データベース作成		
成績評価の方法	授業内での操作状況（40%）＋各テーマごとの作品提出（60%）		

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本経済</p> <p>【概要】明治から現在までの日本の産業政策と、構造改革の下での福祉改革を中心に講義します(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】現在、日本経済の進むべき方向について、さまざまな議論がなされています。しかし、そうした議論は一定の方向に収束する様子を見せず、真っ向から対立する議論が一層激しく戦わされているといった状況です。こうした状況では、自分自身で主体的に考え、判断できることが非常に重要となります。この講義では、日本経済の特質とその問題点、そして日本経済が過去や国際経済とどのようにつながっているのかについて理解を深め、日本の経済について主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策 第3版』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等 第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等 第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第6回 日本の産業と行政指導：勸告操短、企業の反発等 第7回 開放体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等 第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等 第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き、現在の状況等 第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等 第11回 現在の産業政策：産業活力再生特別措置法、現在の産業政策の特徴等 第12回 グローバル化と構造改革：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向、構造改革の本質等 第13回 構造改革下の福祉改革：国民負担率に対する認識、構造改革下の福祉改革の内容と特徴等 第14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可	[学期] 後期
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政・財政学</p> <p>【概要】 財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政制度とそれが抱える課題に関する内容を中心に、グローバル化の影響等についても講義します(下記、授業スケジュール参照)。</p> <p>【到達目標】 財政には、政府の活動が正直に反映され、その政府の活動は、社会のあり方や人々の生活、経済状況に非常に重要な影響を与えます。これからの日本の社会のあり方やそこでの人々の生活、経済状況は、国民一人一人の財政に対する判断によって、大きく変わることになるでしょう。そこで、本講義では、受講者が財政に関して自分自身で主体的に考え、判断できるようになることを目指し、財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の財政の制度、実態、抱えている課題について理解を深めることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 金澤史男編『財政学』有斐閣		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 財政とは何か：財政の定義、政府に対する評価の揺れ、市場の失敗、政府の機能等 第 3回 予算(1)：定義、役割、予算原則等 第 4回 予算(2)：日本の制度、その抱えている課題、改革の方向等 第 5回 経費(1)：定義、経費を分析する意味、経費の分類等 第 6回 経費(2)：経費膨張の法則・転位効果、小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 7回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等 第 8回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等 第 9回 公債(1)：定義、民間債務との対比、租税との対比、公債の種類等 第 10回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 11回 財政投融资(1)：定義、運用対象、批判等 第 12回 財政投融资(2)：2001年度の改革、今後の展望等 第 13回 財政改革の基本的な見方：社会の変化と財政、本当の財政危機とは、財政改革で求められる視点等 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	農業経済論	担当者	田中 史朗
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可	[学期] 後期
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 世界の中の日本農業—日本農業の針路—</p> <p>【概要】 世界および日本の農業動向と課題を分析・摘出し、世界の食料需給が逼迫化していく中で、いかに日本農業の再建を図り、地域社会再生に繋げていったらよいかを、多角的に検証し解明していく。</p> <p>【到達目標】 世界の人口推移と食料生産の動向、そして日本農業の現状と諸問題の解明を踏まえて、日本農業の今後のありようを展望することのできる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 世界の人口推移と食料生産の動向：地域別の食料需給動向と人口扶養力 第 2回 農産物貿易とフードマイレージ：地域別・国別農産物貿易の特徴とフードマイレージ 第 3回 マルサスの人口論と新マルサス主義：人口論、レスターブラウンと新マルサス主義批判 第 4回 農業の近代化と自由貿易政策：農業革命と自由貿易政策 第 5回 ヨーロッパ、新大陸、日本の農業の特徴と比較：経営規模と生産性 第 6回 途上国における「緑の革命」の功罪と限界について：緑の革命とは 第 7回 農業開発と環境問題：途上国の人口爆発と環境破壊 第 8回 食の安全と農業：遺伝子組み換え作物とBSE 第 9回 農業組織論：農業経営組織の種類と特徴 第 10回 日本農業の現状と課題(1)：国民経済に占める農業の地位と自給率 第 11回 日本農業の現状と課題(2)：農業の近代化と担い手 第 12回 戦後の日本農業政策の検証：「農業基本法」から「食料・農業・農村基本法」 第 13回 農業の再生への道標(1)：六次産業化と都市との交流 第 14回 農業の再生への道標(2)：食育、スローフード運動と所得補償方式 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時におこなうレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	金融論	担当者	内田 昌廣
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 「経済の血液」である金融は、個人の生活や企業活動を支えるとともに、その動向は仕事・生活にも大きな影響を与える。本講義では、金融論の入門講座として金融に関する基礎知識を学習するとともに、金融が経済に及ぼす影響など広い視野を養う。</p> <p><b>【概要】</b> 金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題や最近の世界金融危機の原因まで、幅広いテーマを取り上げて金融というものの全体像を掴み、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> 金融機関の役割や金融市場など金融の基本的な知識を習得し、金融関連の情報に関心を持ち正しく理解できるようになること。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリント (2) 日本経済新聞社編『ベーシック金融入門』日本経済新聞出版社（日経文庫）、安達智彦＋武蔵大学金融学科『金融の基本』日本実業出版社、家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ』中央経済社、岩崎博充『手にとるように銀行がわかる本』かんき出版、株式フォーラム21『手にとるように株・証券がわかる本』かんき出版、森宮康『保険の基本 新版』日経文庫</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：講義の目的・進め方 / 序論：金融とは何かー お金が果たす役割、金融という機能とは？ 第2回 銀行の役割 (1)：資金決済の仕組み、内国為替と外国為替、全銀システムと銀行間決済 第3回 銀行の役割 (2)：銀行の業務（預金と貸付）、銀行の収益構造、信用創造メカニズム 第4回 証券会社の役割 (1)：証券（株式・債券）の仕組み、証券発行市場、証券流通市場 第5回 証券会社の役割 (2)：ブローカー業務、アンダーライティング業務、セリング業務、ディーラー業務 第6回 保険会社の役割 (1)：保険の原理と機能、生命保険と損害保険 第7回 保険会社の役割 (2)：間接金融の主体としての役割、機関投資家としての役割 第8回 その他の金融機関：信託銀行、投資信託会社、消費者金融会社、クレジットカード会社など 第9回 短期金融市場と外国為替市場：金融機関同士が取引する市場の仕組みと機能、市場金利、市場為替レート 第10回 金利とは何か：利息、利率・利回り、金利はどうやって決まるのか、割引現在価値とは 第11回 日本銀行と金融政策：日本銀行の金融調節、金融引き締め・金融緩和、量的緩和政策 第12回 金融システムの安定化のための政策 (1)：銀行に対する規制、預金者保護の制度 第13回 金融システムの安定化のための政策 (2)：証券会社・保険会社に対する規制、投資家や保険契約者保護の制度 第14回 バブル経済崩壊と世界金融危機：日本のバブル経済と崩壊、世界金融危機はどのように起こったか 第15回 まとめと試験 (※ 講義の進み具合によって予定を変更する場合があります)</p>		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	経済学史	担当者	斉藤 悦則
		[履修年次] 1, 2, 3年 [単位] 2単位	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 経済をとらえる学説の移り変わりを眺める。</p> <p><b>【概要】</b> もともと経済学は、経世済民（人民救済）の学問であった。「まっとうな」金儲け、「法外でない」利子、「正当な」価格や分配などについて考える学問であった。したがって、それは倫理学（道徳の科学）と大きく重なり合う。ところが、経済学はだいたい道徳の科学から離れていく。そして、そのことによって「より科学的になった」とも言われる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 経済学の移ろいを眺めて、現代の経済を見つめる眼力を育てる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) なし (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 人の不幸を土台にして幸せになる？……重商主義 第2回 生産的という発想……重農主義 第3回 分業による生産性の向上……アダム・スミス 第4回 供給が需要をつくりだす……J・B・セイ 第5回 食糧自給による安全保障……マルサス 第6回 国際分業の大切さ……リカードゥ 第7回 経済学者にたまされるな……リスト 第8回 変化をとらえる……マルクス 第9回 理想の資本主義……J・S・ミル 第10回 限界革命……ワルラス 第11回 革新（イノベーション）の大事さ……シュンペーター 第12回 市場は万能ではない……ケインズ 第13回 市場の擁護……ハイエク 第14回 法律を犯さなきゃいいってもんじゃない……アマルティア・セン 第15回 まとめ</p>		
成績評価の方法	授業ごと実施する小論文 (100%)		

授業科目	経済学特講	担当者	蔵元 淳
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 すべての人に関係する親族法と相続法と悪徳商法の手口について</p> <p>【概要】 親族法（親子、兄弟姉妹、夫婦の各関係）と相続法について、弁護士経験にもとづき具体的に講義する。 また、経済的に苦しむ人々の救済手段たる消費者破産についてもふれる予定である。 加えて、悪徳商法にひっかからないためにこの時間を設け、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について講義をする。</p> <p>【到達目標】 司法書士のレベルに到達できるよう講義するつもりである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 六法（小六法、模範六法その他何でも可）を持参願いたい。 (2)		
授業スケジュール	第1回 悪徳商法にひっかからないために、ネットワークビジネス、内職商法、就職商法、デート商法、キャッチセールスなどの被害の手口、対処の仕方について 第2回 婚姻（結婚）とは 第3回 内縁について 第4回 離婚とは 第5回 離婚原因について 第6回 離婚に伴う親権の指定、財産分与、慰謝料などについて 第7回 親子（実子）について 第8回 親子（養子）について 第9回 相続とは 第10回 誰が相続するか 第11回 相続の割合はどうか 第12回 遺言書について 第13回 遺留分とは、どういうことか 第14回 個人破産とは、どういうことか 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（80%）に授業での発言内容（20%）を加味する。		

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化～トヨタのSPSと日系ブラジル人</p> <p>【概要】 グローバル化が加速する21世紀の世界経済について、その制度的な枠組みをWTO, FTA, EPAを中心に、バラッサの経済統合の理論を参照しながら説明する。そのうえで、日本企業の急速な海外生産の拡大を量的な面から外観するとともに、海外工場に最新のモノづくりの技術が導入される一方で、国内マザー工場のイノベーションが停滞している現状をみていく。</p> <p>【到達目標】 21世紀のグローバル化の現状を制度面と、その制度を活用する民間企業の活動の両面から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業中に指示する。		
授業スケジュール	第1回 21世紀のグローバル化の二つの方向：外に向かうグローバル化と内に向かうグローバル化 第2回 WTOの仕組み：最恵国待遇、内国民待遇、数量制限の禁止、ドーハラウンド 第3回 FTAとバラッサの5段階説：EU 第4回 進展するFTAとEPAの限界：東アジア共同体かTPPか、NAFTA、メルコスル。日本のEPA戦略の意義と限界 第5回 海外工場から始まる最新のモノづくり（中国1）：广汽トヨタにおけるSPSとリーマン化の進展 第6回 同上（中国2）：SPSと労働過程の変容～ネオテイラー主義からウルトラテイラー主義へ～ 第7回 同上（中国3）：サプライヤーパーク内専用道順引き：JITからJISへの進化と負担軽減 第8回 同上（中国4）：日系自動車メーカーと中国金型産業 第9回 同上（中国5）：中国金型産業の発展と限界 第10回 同上（タイ）：トヨタモータータイランドにおけるコンベア同期台車式SPS 第11回 同上（台湾）：国瑞汽車におけるAGV牽引同期台車式SPS 第12回 同上（インドネシア）：TMMINにおけるハンガー式SPS 第13回 内に向かうグローバル化：リーマンショックと生産のフレキシビリティ 第14回 同上：リーマンショックと雇用のフレキシビリティ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	国際立地論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業が創業の地から国内の他地域へ、そして海外へ展開していくプロセスの考察</p> <p>【概要】自動車産業を例に、創業の地から東北・北海道、九州への立地、南アフリカ、アルゼンチン、ベネズエラへの立地と展開していく過程を考察する。</p> <p>【到達目標】資本の民族性と国際性を理解するとともに、ナショナル、リージョナル、グローバルの意味を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	授業で指示する。		
授業スケジュール	第 1回 国内立地と国際立地 第 2回 国内立地 (1) 東北・北海道への立地 第 3回 国内立地 (2) 東北・北海道への立地 第 4回 国内立地 (3) 東北・北海道への立地 第 5回 国内立地 (4) 九州への立地 第 6回 国内立地 (5) 九州への立地 第 7回 国内立地 (6) 九州への立地 第 8回 国際立地 (1) 中国への立地 第 9回 国際立地 (2) 南アフリカへの立地 (IMV1) 第 10回 国際立地 (3) アルゼンチンへの立地 (IMV2) 第 11回 国際立地 (4) ベネズエラへの立地 (IMV3) 第 12回 国際立地 (5) 第 13回 資本の民族性と国際性 (1) : 国家によって総括された資本と、それを超えていく資本 第 14回 資本の民族性と国際性 (2) : ナショナル, リージョナル, グローバル 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	アジア経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 1, 2, 3年                      〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位                      〔必修/選択〕 選択                      〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】成長するアジアとアジア共同体への展望</p> <p>【概要】ヨーロッパ27カ国はヒト、モノ、カネの出入りが自由な共同体、EUを結成している。この27カ国は、地面の上には国境がなく、文字通り自由に出入りできる。アジアにも、こうした自由な共同体はできるのか? TPPと東アジア共同体の可能性を検討する。そのうえで、世界経済の成長を牽引する中国、インド、東南アジアの現状を概観する。以上の検討を踏まえて、アジア経済の未来を展望する。</p> <p>【到達目標】アジア共同体への道を、各国の発展の現状から理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1回 アジアとヨーロッパ: 統合に向かう成長と統合による成長 第 2回 アジア経済への道 (1) : 経済統合の5段階 第 3回 同上 (2) : TPPによる完全自由化への道 第 4回 同上 (3) : 東アジア共同体による保護を残した自由化への道 第 5回 中国経済 (1) : 経済規模で日本を追い抜いた中国経済 第 6回 同上 (2) : 社会主義を目指す資本主義 第 7回 同上 (3) : アメリカよりも「自由な市場経済の国」中国へ改革開放30年の成果へ 第 8回 インド経済 (1) : インドの概況 第 9回 同上 (2) : 植民地から独立、管理経済を経て91年から自由化 第 10回 同上 (3) : 民族資本として成長するTATA 第 11回 東南アジアの経済 (1) : タイとインドネシア 第 12回 同上 (2) : マレーシア、フィリピン、ベトナム 第 13回 アジアの未来 (1) : 中国、インド、日本の役割 第 14回 同上 (2) : アジア共同体への展望 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 前期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じうるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）。		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか 第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第7回 国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題 第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回 国際社会における諸問題3：環境問題、人権、予防外交 第13回 国際社会における諸問題4：9.11以後の世界 第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	試験によって評価する。(100%)		

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位 〔学期〕 後期 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては、植民地化や日本占領期という共通の時代性が、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近「東アジア共同体」ということがしきりに叫ばれている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2：植民地のようす 第5回 歴史的形成3：脱植民地化、国民国家建設、開発 第6回 歴史的形成4：冷戦下のアジア 第7回 東南アジア1：インドシナ三国 第8回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響 第9回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア 第10回 東南アジア4：メコン河流域開発 第11回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第12回 アジアにおける協力体制1：「東アジア共同体」について 第13回 アジアにおける協力体制2：「東アジア共同体」と日本 第14回 アジアにおける協力体制3：「東アジア共同体」の展望 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	レポートによって評価する。(100%)		

授業科目	ヨーロッパ事情	担当者	大重 康雄
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 後期 〔授業形態〕 講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ヨーロッパの現状を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や欧州統合での課題を考察する。</p> <p>【概要】 ヨーロッパの地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機に至る過程に重点を置き、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に平成23年度 (2011年度) は国際経済危機後の経済状況が深刻化しており、EUにおける雇用や財政問題・環境・エネルギー問題への対処を米国や日本と比較し、将来への展望を全員で意見交換する。</p> <p>【到達目標】 ヨーロッパの地域統合 (EU) の拡大と深化の現状と課題を学び、日本や東アジアまた地域経済の抱える課題解決の糸口を見出す。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 原輝史『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか 第2回 ヨーロッパ産業資本の形成 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 国際金融危機とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える課題 第7回 イギリスとEU経済 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 EUと東欧・ロシアとの現状 第12回 EUと自由貿易協定 (FTA) 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会と統合の将来 第15回 試験		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 出席点 (20%)		

授業科目	地域経済論	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔単位〕 2単位		〔学期〕 前期 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済と第一次産業—地域再生の視角—</p> <p>【概要】 離島・半島など条件不利地域において (鹿児島県とてその例外ではなく、むしろ多く抱える)、どのような問題を抱え、どのようにして地域経済の再建と地域社会の再生を図っていったらよいかを、事例分析を通して、多角的に解析し、考察していく。</p> <p>【到達目標】 農山漁村地域の抱える諸問題の解明を踏まえて、それに対する政策的処方箋を導出するなど、地域学の視点から農山漁村地域の社会発展のありようについて考察できる能力を身につけさせたい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 地域主義と地方の時代：地域問題と地域経済論 第2回 内発的発展論：地域社会の再生と持続可能な発展 第3回 地域づくり運動の展開：地域づくり運動の諸相と課題 第4回 農山漁村地域の活性化 実態編 (1)：農山村地域での地域づくりとその手法 第5回 農山漁村地域の活性化 実態編 (2)：漁村地域での地域づくりとその手法 第6回 資源管理論：コモンズの悲劇と広域的資源管理組織 第7回 里海・里山は誰のものか：地域資源の利用・管理とコンフリクト 第8回 第一次産業の担い手問題：後継者対策とU・Iターン者 第9回 地域リーダー論：地域リーダーの特徴、育成、そして役割 第10回 経営組織論：地域づくりと経営組織形態 第11回 農山漁村地域の組織問題：異種間連携とホロニック 第12回 農林水産物の流通機構と価格形成：付加価値向上に向けての取り組み 第13回 地域システムの形成：ハブ型リレーションシップからネットワークへ 第14回 農山漁村地域再生への道標：事業開発への挑戦と生活文化の再生 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験 (60%)		

授業科目	地域産業政策	担当者	田中 史朗
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 後期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の再建と地域社会の再生</p> <p>【概要】 閉塞感の漂う条件不利地域にあって、地域の持続的な発展に何が必要なのか、事例分析を踏まえて解明していきたい。</p> <p>【到達目標】 地域のニーズを知る力、地域の課題や問題点を的確に捉えて、その解決のために必要な施策を考える力を鍛錬したい。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 条件不利地域の現状と諸問題：条件不利地域とは 第 2回 日本における地域開発の特徴：工業化と都市化の進展 第 3回 日本における地域開発の功罪 実態編（1）：全国総合開発計画と高度経済成長 第 4回 日本における地域開発の功罪 実態編（2）：格差の拡大と公害問題 第 5回 経済のグローバル化の進展と産業の空洞化現象：円高ドル安とリゾート開発 第 6回 内発的発展論と地域経済の再建：地域資源と地域づくり 第 7回 地域再生のための手法：六次産業化と生活文化の再生 第 8回 農村地域再生への取り組み 実態編（1）：自然生態系との共生モデル他 第 9回 山村地域再生への取り組み 実態編（2）：地域資源活用型ビジネスモデル他 第 10回 漁村地域再生への取り組み 実態編（3）：地域まるごとブランド化と都市との交流 第 11回 地方都市再生への取り組み 実態編（4）：中心市街地活性化とコンパクトシティ 第 12回 地方都市再生への取り組み 実態編（5）：歴史的建造物・街並み修復保全型街づくりと観光事業 第 13回 地方都市再生への取り組み 実態編（6）：自然景観と芸術文化による地域づくり 第 14回 地域再生のための内発的発展モデル：人、組織、環境、産業 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	授業での発言内容および授業時に実施するレポート(40%)＋期末試験(60%)		

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		〔学期〕 前期
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方自治, 地方行財政</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係の特徴は何かといった視点を踏まえて、地方自治に関する基本的な理論や制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます(下記、授業スケジュールを参照)。</p> <p>【到達目標】 地方自治に関する基本的な理論、そして日本の地方自治に関する制度やその課題について理解を深め、地方自治、地方行財政について、自分自身で主体的に考えられるようになることを目標とします。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	なし 林健久編『地方財政読本 第5版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治：地方自治とは何か、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景、グローバル化の影響等 第 3回 地方自治体の意思決定(1)：役所と議会の関係、国と地方自治体の関係等 第 4回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等 第 5回 地方自治体の財源(1)：三位一体の改革、地方債等 第 6回 地方自治体の財源(2)：地方財政健全化法について等 第 7回 地方自治体の財源(3)：地方交付税、国庫支出金等 第 8回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等 第 9回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、可能性と問題点等 第 10回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等 第 11回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、藤沢市の事例等 第 12回 非営利組織：アメリカの非営利開発法人の事例等 第 13回 住民自治：シアトル・メトロの事例について 第 14回 総括：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等 第 15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋小テスト(20%)。小テストの内容等、詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	労働法	担当者	正田 京子
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい労働）」とは何か</p> <p>【概要】1919年に国際労働機関（ILO）が結成されて以来、「人間らしい労働」の実現はその基本理念だった。そのILO発展の歴史を概観しながら、国際社会の中で日本がどのような対応をしてきたか。設立90周年になるILOが、現在、あえて「ディーセント・ワーク」をスローガンとして掲げているのはなぜなのか。日本の労働法の発展と現在を、国際社会の中に位置づける。</p> <p>【到達目標】グローバル化する社会の中で、労働の分野で「規制緩和」とはどのような意味をもち、どのような結果をもたらしているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 資料を配布する。 (2) 講義時に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 労働法前史：山本茂実『ああ野麦峠—ある製糸女工哀史』を読む 第2回 国際労働機関ILOの発展史 第3回 労働法とは：日本国憲法で保障された労働者の権利と労働法 第4回 労働基準法の目的と内容：労働基準法の概要と法の実効性を確保する方法 第5回 労働契約のルール：労働契約上の権利・義務 第6回 労働時間のルール：労働時間・時間外労働・割増賃金 第7回 休憩・休日のルール 第8回 労働時間規制の弾力化は何かをもたらしたか 第9回 女性雇用のルール：男女同一賃金の原則から男女雇用機会均等法制定まで 第10回 母性保護規定、育児・介護休業法、アファーマティブ・アクション 第11回 労働安全衛生と労災補償：過労死、パワー・ハラスメント 第12回 労働契約の終了：契約解除の自由と解雇制限、非正規雇用と雇い止め 第13回 竹信恵美子『ルポ雇用劣化不況』を読む 第14回 労働は商品ではない：労働の人間化とディーセント・ワーク 第15回 予備日</p>		
成績評価の方法	レポート（60点）＋ 毎回の講義終了時に提出してもらう小レポート（40点）		

授業科目	国際経済特講	担当者	梅 允中
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ及び概要】経済のグローバル化の進展は著しく、消費者のニーズも多様化していることによって、貿易取引を行う企業は増えつつあります。そこで、これからは、輸出入取引の仕組みや外国為替、貿易決済などの貿易実務の知識を得ることは重要です。この講義では、貿易実務について広く習得し、貿易実務担当者となるための知識を身に付けます。また、貿易実務を学習しながら、貿易英語も勉強します。</p> <p>【到達目標】貿易実務担当者レベル</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>最新版 貿易実務 ハンドブック 日本貿易実務検定協会 編 発行所 中央書院</p>		
授業スケジュール	<p>第1回～第4回 輸入編 ・貿易とは、規制の確認、インコタームズ、輸入の流れ ・輸入採算、契約、海上貨物保険 ・決済方法、通関、貨物引取り 第5回～第8回 輸出編 ・輸出採算、輸出流れ、輸出信用状、輸出書類作成 第9回～第10回 外国為替編 ・外国為替の仕組み、為替リスク、外国為替と銀行取引 第11回 貨物海上保険 第12回 通関と関税 第13回 仲介貿易 第14回 貿易実例紹介 第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	期末試験の成績（70%）に授業での発言内容及び予習の状況（30%）を加味する。		

授業科目	地域研究特講	担当者	山本 晃正
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 前期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】キャッチセールス、資格商法、マルチ商法などの悪徳商法や外国為替証拠金取引などの金融商品被害はどのように規制されているのか、食品偽装などで問題とされる食の安全性はどのように確保されるのか、危険な製品で受けた消費者の被害はどのように金銭賠償されるのか、サラ金への規制はどうなっているか、公正な競争や表示のための規制はどうなっているのかなど、われわれ消費者を取り巻く様々な法律問題を、できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。</p> <p>【到達目標】消費者が直面する具体的諸問題の現状や内容に関心を持ち理解すると共に、消費者が保障されている法律上の制度や諸権利の内容に関心を持ち理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは』法律文化社		
授業スケジュール	<p>第1回 消費者問題の諸相、消費者の権利、消費者と契約：契約とは何か、契約の拘束力からの離脱</p> <p>第2回 消費者と契約：消費者契約法（目的、対象、取消権）</p> <p>第3回 消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効、適格消費者団体による差止請求権）</p> <p>第4回 消費者と契約：特定商取引法（対象とする取引の概要、ネガティブ・オプション）</p> <p>第5回 消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売に関する諸規制、クーリングオフの意味と制度概要）</p> <p>第6回 消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引に関する諸規制）</p> <p>第7回 消費者と契約：特定商取引法（連鎖販売取引＝マルチ商法に関する諸規制）、無限連鎖防犯法（ねずみ講の禁止）</p> <p>第8回 消費者と安全：製造物責任法（目的・製造物の概念・欠陥の概念）</p> <p>第9回 消費者と安全：製造物責任法（責任主体・製造物責任・免責事由）</p> <p>第10回 消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など</p> <p>第11回 消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん）</p> <p>第12回 消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）</p> <p>第13回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（消費者保護に関連の深い側面に限定して）</p> <p>第14回 消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法）</p> <p>第15回 まとめと試験</p> <p>第8回前後と第14回前後頃に2回、復習のために模擬演習テスト（成績評価には影響しない）を実施する。</p>		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	地方自治法	担当者	山本 敬生
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地域主権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 『ポケット六法』（平成23年度版）有斐閣2010年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例(1)</p> <p>第7回 条例(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 議会と長との関係</p> <p>第13回 地方公共団体と国の関係</p> <p>第14回 予算</p> <p>第15回 まとめと試験</p>		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言の記録（10%）を基準に、総合的に評価する。		

授業科目	簿記論Ⅱ	担当者	宗田 健一
	〔履修年次〕 1, 2, 3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注1) 〔授業形態〕 講義方式 (黒板とパワーポイントの併用)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記と財務諸表</p> <p>【概要】 簿記論Ⅰなどで簿記一巡の手続きを学修した学生を対象として、諸取引の処理と決算に関して学習します。また、新聞記事などをもとにして社会における簿記・会計の役割について学習します。</p> <p>【到達目標】 複式簿記の記録・計算の知識と技術の修得により、最終的に、財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の作成が行えるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 蛭川幹夫『基本簿記』実教出版、2010年。 蛭川幹夫他『基本簿記演習』実教出版、2010年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、 諸取引1：現金・現金過不足 第2回 諸取引2：当座・小口現金 第3回 諸取引3：商品売買取引（3分法） 第4回 諸取引4：掛取引 第5回 諸取引5：手形取引1 第6回 諸取引6：手形取引2 第7回 諸取引7：その他の債券、債務 第8回 復習、小テスト1 第9回 諸取引8：売買目的有価証券 第10回 諸取引9：固定資産 第11回 諸取引10：資本金と税金 第12回 諸取引11：決算整理1 第13回 諸取引12：決算整理2 第14回 諸取引13：伝票 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	小テスト・予習・復習の状況（20%）、および最終試験（80%）で評価します。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布します。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示します。		

(注1) 2011年度後期に開講されるコンピュータ会計、2012年度後期に開講される財務会計論を履修する予定の学生は、必ず、簿記論Ⅰ、Ⅱを履修してください。

授業科目	経営管理論	担当者	竹中 啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義形式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】 2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、ある目的を実行するためにどのように組織を効率よく調整し、組織内部にいる関係者のみならず、組織外部のさまざまな状況と関わり合いを持ち、対処しているのかを講義していきます。</p> <p>【到達目標】 組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義概要の説明：今後の講義の概要について説明する 第2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の考え方の違いについて説明する 第3回 経営学の発展と必要性：経営学の必要性について説明する 第4回 株式会社の特徴とは何か：株式会社の特徴について説明する 第5回 組織と個人の関わり方：組織と個人の関わり方について、企業文化等を通して考える 第6回 組織内での人の動き方：組織における人間観について 第7回 人はなぜ働くのか：人はなぜ働くのかを考える 第8回 日本の経営を考える：日本の経営を説明する 第9回 成果主義とはどのような制度か：成果主義の考え方を説明する 第10回 組織構造とそのポジション（1）：組織構造の仕組みについて説明する 第11回 組織構造とそのポジション（2）：組織構造の問題点について説明する 第12回 経営管理と経営戦略：経営管理と経営戦略の考え方の違いについて説明する 第13回 企業は誰のものか：企業は誰のものか考える 第14回 経営者の役割とは何か：経営者の役割を考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1回目の講義で説明します。		



授業科目	原価計算	担当者	白谷 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 製造業で用いられる原価計算技法について学習する。  <b>【概要】</b> 製品の販売価格の決定や在庫金額の計算には製品原価を知る必要がある。この「原価」はどのようにして計算されるのかについて日商簿記検定（工業簿記）2級レベルの問題演習をととして学習する。  <b>【到達目標】</b> 日商簿記検定2級程度の原価計算・工業簿記を習得する。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 岡本清・廣本敏郎監修『段階式日商簿記 2級工業簿記』税務経理協会、プリント		
授業スケジュール	第1回 講義ガイダンス、工業簿記と原価計算（工業簿記の勘定体系） 第2回 原価の分類（発生形態別分類、製品とのかかわりによる分類、発生態様別分類） 第3回 費目別原価計算①（材料費・労務費・経費の計算） 第4回 費目別原価計算②（製造間接費の配賦） 第5回 部門別原価計算（部門費の配賦） 第6回 個別原価計算（原価計算表の集計） 第7回 総合原価計算①（単純総合原価計算） 第8回 総合原価計算②（工程別総合原価計算） 第9回 総合原価計算③（組別総合原価計算、等級別総合原価計算） 第10回 標準原価計算①（材料費・労務費の差異分析） 第11回 標準原価計算②（製造間接費の差異分析） 第12回 直接原価計算①（固定費調整） 第13回 直接原価計算②（損益分岐点分析） 第14回 工場会計の独立（本社・工場勘定） 第15回 まとめと試験 ※ 講義の進捗によって予定を変更する場合があります		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	経営学特講	担当者	田原 武志・東 圭太
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<b>【テーマ】</b> 「経営」を広義にとらえ、手法を具体的に考察する。  <b>【概要】</b> 本講義では、「経営」を一般的にイメージする会社だけではなく例えば、文化祭実行委員会等の組織体やそれぞれの家庭、自分自身の人生などを経営（マネジメント）する事はどういう事を学ぶ。それぞれの経営資源の洗い出しから始まり、次に成果を作り出していく手法について考察する。自己の成長と幸福が、家庭・会社・地域社会の成長と幸福へとつながるという基本思想のもと、学生諸君とともに自由な発想で考えていく場とする。  <b>【到達目標】</b> 社会人としての様々な局面を向えた時、その課題を深く理解し論理的な解決を目指し、自己成長を遂げる思考力や行動力を身に付ける。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 毎回プリントを用意する。		
授業スケジュール	第1回 オリエンテーリング 第2回～第14回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表 「世界に誇れる鹿児島県の良さととは？」 「日新公いろは歌の考察」 「自分がもし起業したとしたら？」 「企業の果たす役割責任について」 「自分の仕事観について」 「鹿児島で活動し社会貢献していると思う企業・団体を1つ選び理由を述べよ」 「鹿児島に関する好きな歌を1つ選んで解釈し、選んだ理由を述べよ」 「家庭人、社会人としてのリスクマネジメント」 「人生において貯蓄の意義を考察」 「ファイナンシャル・プランニングの基本考察」等々 第15回 定期試験（プリント・レポート・ノート持ち込み可）		
成績評価の方法	授業での感想発表、定期試験の結果、毎回のレポートの総合評価（全体で100%）		

授業科目	比較経営論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 経営システムの多様性を知ろう</p> <p><b>【概要】</b> この授業では、様々な国の経営を取り上げ、経営システムの比較を行う。まずは日本の経営システムを理解した後、欧米・アジア各国の経営システムを取り上げる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 各国の歴史、政治、経済、地理、などによって、経営のあり方が異なることを知る。また、経営システムの多様性や経路依存性が存在することを理解すること、を目標とする。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：授業の進め方や経営比較の視点について解説する。 第 2 回 日本の経営（1）：日本企業の概要、歴史、統治構造などについて解説する。 第 3 回 日本の経営（2）：日本企業について、戦略や組織の側面から検討する。 第 4 回 日本の経営（3）：日本企業の生産方式、労使関係などについて講義する。 第 5 回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 6 回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の経営について、戦略、組織、生産、労働、などの側面から検討する。 第 7 回 イギリスの経営（1）：イギリス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 8 回 イギリスの経営（2）：イギリスのなかでも、特に工場労働における労使関係を取り上げ、説明する。 第 9 回 フランスの経営：フランス企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 10 回 ドイツの経営：ドイツ企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 11 回 中国の経営：中国企業を取り巻く環境の変化や統治構造、経営システムの特質について講義する。 第 12 回 韓国の経営：韓国企業の歴史および統治構造や経営システムの特質について講義する。 第 13 回 その他の国々の経営：第 12 回までに取り上げなかった国々の経営システムについて講義する。 第 14 回 グローバル競争：これまで見てきた国々が、グローバル市場という同じ舞台上、どのようにしのぎを削っているかを見る。 第 15 回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 60% + 授業ごとに実施する確認テスト 40%		

授業科目	企業行動科学	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b> 企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える</p> <p><b>【概要】</b> 行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために、一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかにも、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論に触れる。主要な動機づけ理論を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2 回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3 回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 4 回 集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第 5 回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 6 回 意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第 7 回 組織文化が意思決定に与える影響：組織文化が意思決定に与える影響を考える 第 8 回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第 9 回 インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点について説明する 第 10 回 リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第 11 回 リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12 回 上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第 13 回 上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14 回 卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15 回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	前期筆記試験（70%）、授業でのレポート（30%）（予定） 詳細については、1 回目の講義で説明します。		

授業科目	経営戦略論	担当者	竹中 啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義形式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略の基本的な考え方を説明し、実際に行われている企業活動との関わりを考える</p> <p>【概要】経営戦略には、企業全体の活動を視野に入れた「企業戦略」と、より具体的な競争戦略を実行する「事業戦略」に大きく分けることができる。この講義では、まず時代と共に戦略論がどのように変化してきたかを概観し、「企業戦略」の重要性について考える。次に、競争に勝ち抜くためのより具体的な「事業戦略」についていくつかの視点を取り上げ、多様な競争に勝ち抜く方法を考えていく。また、実際の企業がこのような戦略をどのように捉え、活用しているのかについても調べていくことにする。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の概要を理解する。「企業戦略」の重要性を知る。多様な競争戦略の方法を知る。実際の企業戦略について触れる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に随時指示する		
授業スケジュール	第1回 講義の概要：講義の概要を説明する 第2回 経営戦略の概念：経営戦略の全般的な考え方を説明する 第3回 企業戦略とはどのようなものか(1)：企業戦略とはどのようなものかを考える 第4回 企業戦略とはどのようなものか(2)：企業戦略を考える意味を説明する 第5回 企業ドメイン(事業領域)の戦略(1)：企業ドメインの考え方について説明する 第6回 企業ドメイン(事業領域)の戦略(2)：企業ドメインの問題点について説明する 第7回 経営戦略と経営資源(1)：経営資源と経営戦略の考え方について説明する 第8回 経営戦略と経営資源(2)：経営資源の考え方を応用した経営戦略を考える 第9回 事業戦略・競争戦略：創発戦略・学習アプローチについて考える 第10回 具体的な競争戦略(1)：競争戦略について考える 第11回 具体的な競争戦略(2)：競争戦略の類型について考える 第12回 相手にしない戦略—反撃を予想した戦略：競争しない競争戦略と考える 第13回 実際の企業における競争戦略を考える：具体的な企業の戦略例を説明する 第14回 新規創造戦略：新規創造戦略について考える 第15回 まとめと試験：まとめと試験を行う		
成績評価の方法	後期筆記試験(70%)、授業でのレポート(30%) (予定) 詳細については、1回目の講義で説明します。		

授業科目	企業論	担当者	朝日 吉太郎
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義形式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】資本主義的企業の発展法則をベースにグローバル化の中の企業戦略を考えます。</p> <p>【概要】世界の政治・経済は、巨大な企業や企業集団に強く影響されています。このような企業が常に勝ち組みになる方策の一つが、市場万能主義をとる新自由主義の発想の根底にありました。ところが、これらの企業の暴走がバブル崩壊・経済危機となって現れ、多くの人々に強い否定的な影響を与えています。どうしてこのような自体になってしまったのでしょうか。現代資本主義の特徴である独占資本の形成発展と現状を法的にとらえながら、グローバル化の中での独占資本企業戦略の特徴、問題、課題について検討します。前開講の社会政策の講義が参考になります。</p> <p>【到達目標】日本の企業集団の成立と発展、今後の変化とそれに対応する能力を身につけ、今日の企業社会のあり方について考える力を身につけます。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) とくに定めない。 (2) 丸山恵也『批判経営学』—学生・市民と働く人のために		
授業スケジュール	第1回 今日の経済の特徴と企業集団の力 : オリエンテーション 第2回 資本主義と企業 : 資本主義的企業経営の原理をとらえる 第3回 競争と機械化 : 生産性向上競争と企業巨大化の原理をとらえる 第4回 蓄積と制限 : 資本蓄積の法則を理解する 第5回 合理化投資 : 資本蓄積のための合理化投資の必然性と資本主義的人口法則をとらえる 第6回 利潤と競争 : 企業利潤の理解と、特別利潤の形成原理を理解する 第7回 商業資本 : 資本主義的商業資本の形成とその展開、制限を理解する 第8回 利子生み資本 : 利子生み資本の基本原則を理解する 第9回 銀行と信用、株式会社 : 銀行資本と株式資本を理解する。 第10回 独占資本の形成と企業集団 : 独占の法則をとらえる 第11回 企業集団と国家 : 企業集団の形成と企業集団と国家との連携を理解する 第12回 日本資本主義の特徴 : 日本資本主義の社会構造と、その下での企業の運動をとらえる 第13回 戦後日本資本主義と企業社会の形成 : 「日本の経営」の特徴を理解する 第14回 グローバル化と企業集団の蓄積戦略の展開 : グローバル化の下での企業の多国籍化、国内での柔軟化をとらえる。 第15回 まとめ		
成績評価の方法	論述試験(100%)		

授業科目	経営工学	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤兼治、『生産マネジメントの手法』, 朝倉書店		
授業スケジュール	第1回 序論：経営工学とは 第2回 投資計画：お金の現在価値と将来価値 第3回 需要予測：過去のデータから未来を予測する 第4回 生産スケジューリング：どんな順番で製品を作れば良いのか 第5回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第6回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第7回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第8回 生産計画：何をどれくらい作り一番儲かるのか 第9回 生産管理：トヨタ生産方式を中心とする生産管理 第10回 作業分析：作業者の動作を分析する 第11回 配送計画：配達順序を決める 第12回 最短経路：一番近い道を探す 第13回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第14回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	コンピュータ会計	担当者	宗田 健一
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択 (注1, 2) [授業形態] 実習方式 (一部、講義方式を含む。基本的にはパソコン教室での講義。)		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 パソコンを用いた財務諸表分析</p> <p>【概要】 この科目では、簿記一巡の手続きに関して理解しており、財務会計に関する基本的な知識を有していることを前提に講義を行います。講義の前半では初歩的な会計用語の解説と財務諸表の見方に関して説明します。また、分析ツールのひとつとしてマイクロソフト社の表計算ソフト (エクセル) の使用を予定していますので、エクセルの基本的な操作に関して説明します。</p> <p>上記の初歩的な説明を行った後、講義の後半では、各種分析手法 (成長性、収益性、安全性) について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』 (通称：EDINET (Electronic Disclosure for Investors' Network)) を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 基本的な財務諸表分析が行えるようになる。エクセルを用いて財務データを表やグラフに加工することができるようになる。実際のデータを用いた各種分析を行い、その結果の解釈を行うことができるようになる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 片山寛他『入門会計学』実教出版、2009年。 (2) 随時紹介		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録確認、コース・パケット配布、会計の全体像 第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法 (EDINETの使い方) 第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み 第4回 財務諸表分析1：財務諸表分析とは、分析の視点 第5回 財務諸表分析2：安全性分析1 第6回 財務諸表分析3：安全性分析2 第7回 財務諸表分析4：収益性分析1 第8回 財務諸表分析5：収益性分析2 第9回 財務諸表分析6：成長性分析3 第10回 財務諸表分析7：キャッシュ・フロー分析1 第11回 財務諸表分析8：キャッシュ・フロー分析2 第12回 財務諸表分析9：その他の分析項目 第13回 時系列分析 (2社以上) 第14回 同業他社比較分析 (2社以上) 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	講義での発言内容、講義 (毎回ではないが) で作成した資料 (40%)、および期末レポート (60%) で評価する。 第1回目の講義においてコース・パケットを配布する。その際もしくは最終講義日に詳細な成績評価の方法に関して提示する。		

(注1) 簿記論I, IIを履修済みであることを前提に講義を行います。

(注2) コンピュータ会計を履修する予定の学生は、簿記論I, II, 財務会計論を履修済みであることが望ましいです。この点から2年次以降の履修を勧めます。

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作</p> <p>【概要】 実務でのコンピュータ利用において、データベース処理ソフトは、非常に重要な役割を果たしている。この演習では、まず、リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の操作を修得し、データベース設計に関する応用問題に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して、簡単なシステム開発を行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 『30時間でマスター Access2007』, 実教出版 (2) きたみあきこ, 『Access2007 マスターブック』, 毎日コミュニケーションズ</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第2回 Access の操作：Access とは 第3回 Access の操作：レコードの並べ替え 第4回 Access の操作：レコードの追加 第5回 Access の操作：フォームの作成 第6回 Access の操作：選択クエリの作成 第7回 Access の操作：さまざまなクエリ 第8回 Access の操作：データベースの設計 第9回 Access の操作：リレーションシップの作成 第10回 Access の操作：レポートの作成 第11回 Access の操作：レポートのアレンジ 第12回 Access の操作：マクロの利用 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重 賢治
		[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 1単位 [必修/選択] 選択	[学期] 前期 [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】 (1) 基本的なプログラミング技術を身につける。 (2) VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 未定 (2) 立山秀利, 『ExcelVBA のプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本』, 秀和システム</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 序論：プログラミングの概念 第2回 マクロ：マクロの登録と実行 第3回 エディタ：VBE (Visual Basic Editor) の使い方 第4回 VBA の利用：プロシージャ 第5回 VBA の利用：オブジェクト 第6回 VBA の利用：セルの操作 第7回 VBA の利用：演算子 第8回 VBA の利用：条件分岐 第9回 VBA の利用：繰り返し処理 第10回 VBA の利用：変数の利用 第11回 VBA の利用：関数の作成 第12回 VBA の利用：ユーザーフォーム 第13回 総合演習 第14回 総合演習 第15回 総合演習</p>		
成績評価の方法	講義中の小テスト (40%) + 課題 (60%)		

授業科目	情報論特講	担当者	倉重 賢治
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれでも履修可能 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 後期 [授業形態] 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 情報技術やその役割について</p> <p>【概要】 現代において、コンピュータやネットワークからなる情報システムは、各種業務を迅速に行う上で必要不可欠なものとなっており、データ分析やシミュレーションなど様々な意思決定の場でも用いられることが多い。この講義では、コンピュータやネットワークに関する基本的な事柄、コンピュータを用いた意思決定方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 情報技術の基本的な事柄を学び、それらが実社会でどのように役に立っているのかを理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) プリント (2) 特になし		
授業スケジュール	第1回 序論：講義の概要 第2回 情報技術の進化：コンピュータやインターネットの歴史 第3回 コンピュータの仕組み1：ハードウェア 第4回 コンピュータの仕組み2：ソフトウェア 第5回 ネットワーク技術1：インターネットの概要 第6回 ネットワーク技術2：インターネットのプロトコル 第7回 コンピュータの利用：データベースとプログラミング 第8回 情報セキュリティ1：共通鍵暗号 第9回 情報セキュリティ2：公開鍵暗号 第10回 シミュレーション1：シミュレーションとは 第11回 シミュレーション2：簡単なシミュレーションを体験する 第12回 意思決定1：意思決定とは 第13回 意思決定2：エクセルのソルバーの利用 第14回 データ分析：エクセルのデータ分析の利用 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + レポート (30%)		

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 マーケティングを体系的に学ぶ</p> <p>【概要】 マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための「仕組みづくり」である。現代社会においてマーケティングの役割はますます重要になってきている。この授業では、マーケティングの基本および現代のマーケティングについて講義していく。</p> <p>【到達目標】 マーケティングについて理解してもらい、消費者としての視点および販売者としての視点を養ってもらい、すなわち、消費者として、購買してもらうために企業はどのようなマーケティングを行っているのかを理解し、「賢い消費者」になることである。同時に、販売者として、顧客にモノやサービスを売るためには、いかなる努力が必要かを知ることである。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	プリント		
授業スケジュール	第1回 イントロダクション：授業の進め方を説明し、マーケティングの概要を解説する。 第2回 マーケティングの誕生と基本概念：マーケティングの原点および押えておくべき基本概念を説明する。 第3回 標的市場の選択：STPの概念を用いて、いかに標的市場を選定するのかについて講義する。 第4回 市場・消費者行動分析：市場や消費者を分析するために何が必要か、具体的にどのような方法があるのかについて講義する。 第5回 競争分析：ポーターやコトラーの戦略論を解説し、いかにマーケティング上の優位性を追求していくかを講義する。 第6回 製品戦略：製品差別化戦略や製品ライフサイクル、製品開発プロセス、などを中心に解説する。 第7回 価格戦略：価格設定の重要性とそれを戦略的に行う方法について説明する。 第8回 プロモーション戦略：プロモーションの手段、およびそれらを組み合わせるプロモーション・ミックスについて説明する。 第9回 流通戦略：流通の仕組みとチャネル選択の方法について説明する。 第10回 ブランド戦略：強いブランドを築くことの重要性と、そのようなブランドを築くための基本戦略について解説する。 第11回 経験価値マーケティング：代表的な事例を用いて、消費者の経験を演出する様々な方法を考えてもらう。 第12回 関係性マーケティング：企業と消費者の相互関係のあり方と、両者の相互関係を通じた長期的関係の構築について見ていく。 第13回 グローバル・マーケティング：国際的にマーケティングを展開する際、いかなる要素を考慮すべきかについて考えてもらう。 第14回 ソーシャル・マーケティング：マーケティングにおける社会的責任について講義する。 第15回 まとめと試験		
成績評価の方法	筆記試験60%+授業ごとに実施する確認テスト40%		

## 18 商経学科の演習・実習科目

## 第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

## 第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	学科教員全員
<p><b>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</b></p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p><b>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？</b></p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものから考え方から出発して、自分自身の問題関心に基ついて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p><b>③「演習」系科目の受講の流れ</b></p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p>			
<p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p>			
<p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」</p>			
<p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p>			
<p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p>			
<p>3年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p><b>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</b></p>			
<p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p><b>⑤成績評価の方法</b></p>			
<p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p><b>⑥受講登録上の注意</b></p>			
<p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b>「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p><b>【概要】</b>公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p><b>【到達目標】</b>自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 2年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式		
テーマ及び概要	<p><b>【テーマ】</b>この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p><b>【概要】</b>県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p><b>【到達目標】</b>自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100%）		